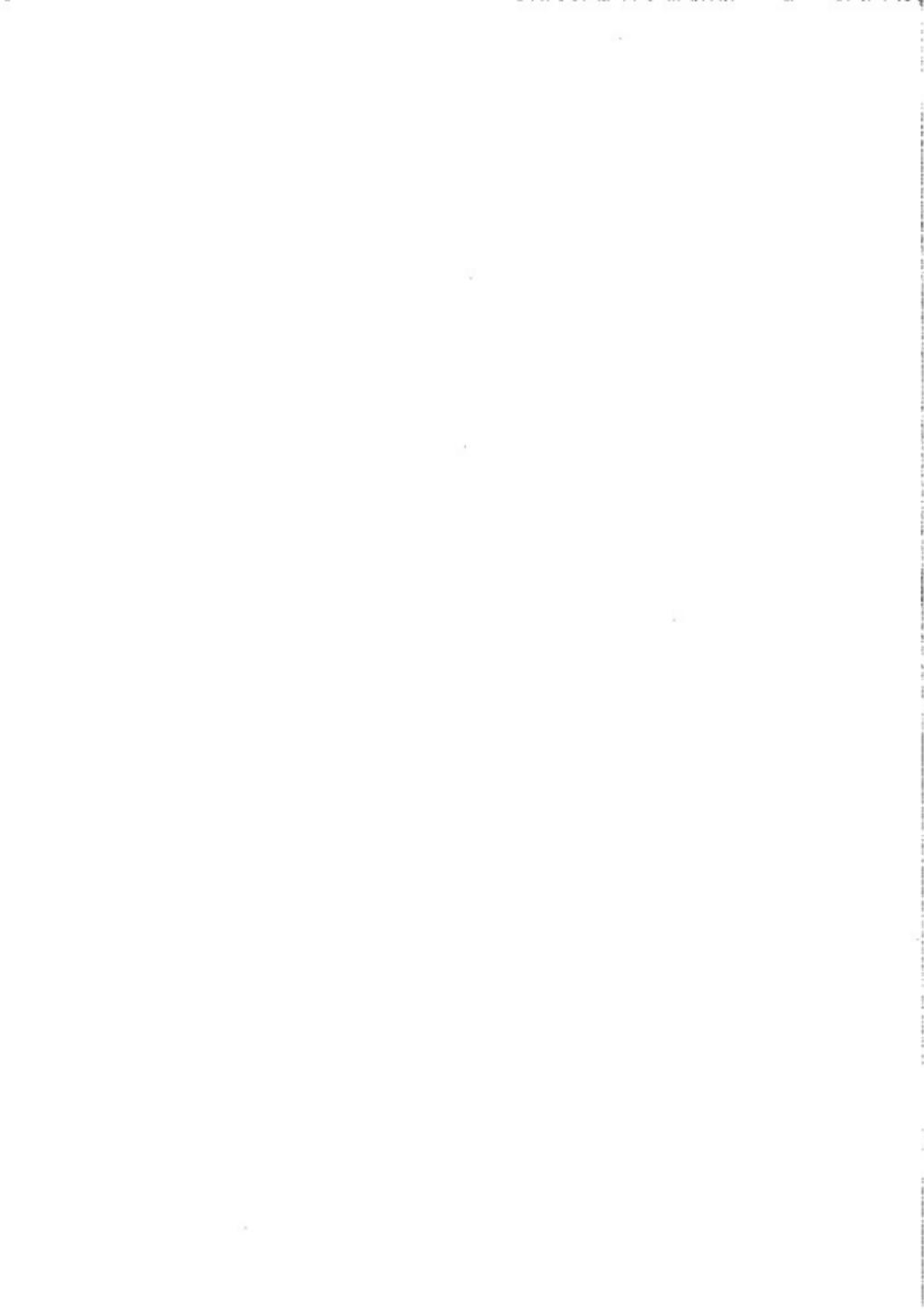


東郷遺跡

—第23次・第24次発掘調査報告—

1991年

財團法人 八尾市文化財調査研究会



東郷遺跡

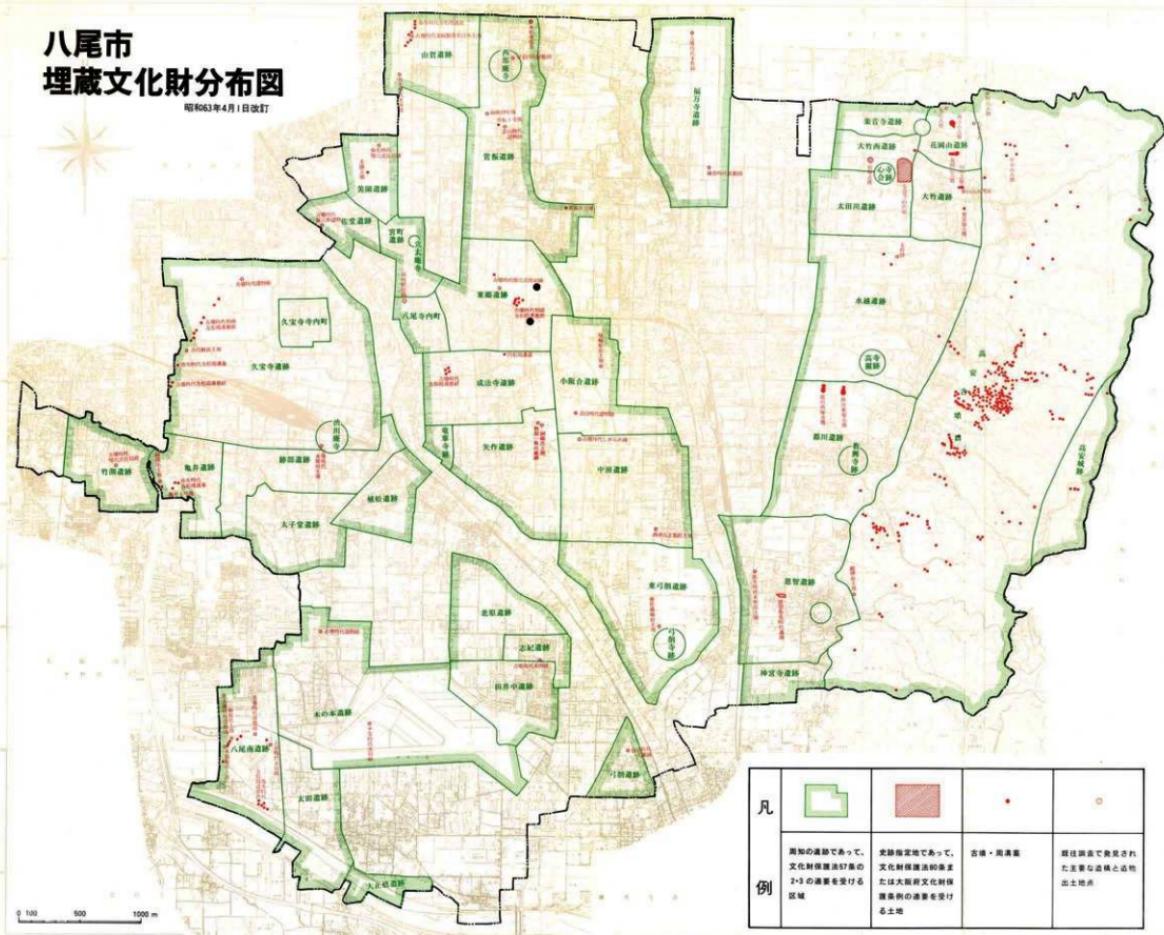
—第23次・第24次発掘調査報告—

1991年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

八尾市 埋蔵文化財分布図

昭和63年4月1日改訂



はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、近年の市街化の開発による宅地化が進み飛躍的に発展している衛星都市であります。本市は古来より幾度もなく旧大和川の氾濫を受けながら戦い続けた先人達の痕跡が残る河内平野と、全国的に知られる高安古墳群が遺存する生駒山地西麓が存在する数多くの歴史が残っている地域であります。

その反面、先人達が残した貴重な文化遺産が開発による破壊で消滅しつつある状況であります。私達は、後世に永く伝承させることが大きな資本と認識し、埋蔵文化財保護および記録保存に全力をあげております。

今回、昭和61年度・昭和62年度に実施しました東郷遺跡第23次調査・第24次調査の整理が完了しましたので、ここに報告します。

その結果は本市の政治・文化の歴史も研究する上で貴重な一資料になると確信して報告をまとめました。

本書が学問の発展と文化財保護、啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査に対してご協力いただきました関係機関の皆様に對し心から厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

福 島 孝

序

- 1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が昭和61年度・62年度に実施した発掘調査成果の報告を集録したもので、内業整理及び本書作成業務は各現地調査終了後に着手し、平成2年度をもって終了した。
- 1、本書の第2章は、莊内町1丁目地内で実施したマンション建設に伴う発掘調査、第3章は桜ヶ丘3丁目124-1番地で実施した共同住宅建設に伴う発掘調査の報告である。
- 1、本書に報告する発掘調査業務は、財団法人八尾市文化財調査研究会が藤井政次郎氏から委託を受けて実施した第23次調査と奥山長次郎氏から委託を受けて実施した第24次調査である。
- 1、現地調査は第23次調査が昭和62年2月16日～3月18日、第24次調査が昭和62年4月8日～4月23日にかけて、高萩千秋を担当として実施した。調査面積は第23次調査-598m²、第24次調査-258m²を測る。なお、調査においては第23次調査が藤田・高井裕之・岩本多貴子・村田圭子、第24次調査が岡田清一・高井裕之・小西博樹が参加した。
- 1、内業整理は、現地調査終了後実施し、平成3年に刊行した。
- 1、本書に関わる業務は、遺物実測-岡田・高井・松村富子・村田（主）、図面レイアウト-岩本・村田英子、図面トレース-岩本・村田（英）、遺物写真撮影-高萩が行った。本書の執筆は主に高萩が担当したが、第4節出土遺物観察表については森本浩一が担当した。
- 1、全体の編集は高萩が行った。
- 1、本書の構成・編集は高萩千秋が行い、文責等は下記に明記した。
- 1、本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500の1（昭和57年11月1日発行）・八尾市教育委員会発行の八尾市埋蔵文化財分布図（昭和63年4月1日改訂）をもとに作成した。
- 1、本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面である。
- 1、本書で用いた方位は、磁北を示している。
- 1、遺溝は下記の略号で表した。
井戸-S E 土坑-S K 小穴-S P 溝-S D 落ち込み-S O
- 1、実測図の縮尺は、造構が20分の1・40分の1・50分の1・100分の1を基準とし、遺物は大きいものは6分の1、小さいものは2分の1、他は4分の1に統一した。
- 1、遺物実測は断面の表示によって次のように分類した。
弥生式土器・土師器・瓦器・瓦・埴輪・石類-白・須恵器-黒・木製品-斜線。
- 1、各調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

本文目次

八尾市埋蔵文化財分布図

序文

例言

第1章 はじめに	1
第2章 第23次調査	3
第1節 調査の概要と方法	3
第2節 調査の結果	4
I 基本層序	4
II 検出遺構・出土遺物	7
第3節 まとめ	19
第4節 出土遺物観察表	20~24
第3章 第24次調査	25
第1節 調査の概要と方法	25
第2節 調査の結果	26
I 基本層序	26
II 検出遺構・出土遺物	26
第3節 まとめ	40
第4節 出土遺物観察表	41~45

挿図目次

第1図 調査地位置図	2
〈第23次調査〉	
第2図 調査区設定図及び区割り図	3
第3図 基本層序柱状図 (S = 1/40)	4
第4図 遺構平面図	5 ~ 6
第5図 S K 1 平断面図	7
第6図 S K 2 平断面図	8

第7図	S K 3 平断面図	8
第8図	S K 4 平断面図	9
第9図	S K 5 平断面図	9
第10図	S K 6 平断面図	10
第11図	S K 8 平断面図	10
第12図	S K 9 平断面図	11
第13図	S K 9 出土遺物実測図	11
第14図	S K 10 平断面図	11
第15図	S K 10 出土遺物実測図	11
第16図	S K 13 平断面図	12
第17図	S K 15 平断面図	13
第18図	S K 15 出土遺物実測図	13
第19図	S P 5 平断面図	13
第20図	S P 5 出土遺物実測図	13
第21図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	16
第22図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	17
第23図	遺構に伴わない出土遺物実測図 3	18
〈第24次調査〉		
第24図	調査区設定図及び区割り図	25
第25図	基本層序柱状図	26
第26図	第1 調査面遺構平面図	27
第27図	第2 調査面遺構平面図	28
第28図	第3 調査面遺構平面図	29
第29図	S K 1 出土遺物実測図	30
第30図	土器集積平断面図 1	30
第31図	土器集積平断面図 2	30
第32図	土器集積出土遺物実測図 1	31
第33図	土器集積出土遺物実測図 2	32
第34図	S K 2 平断面図	33
第35図	S K 3 出土遺物実測図	33

第36図	S K 3 平断面図	33
第37図	S K 4 平断面図	34
第38図	S K 4 出土遺物実測図	34
第39図	S D 3 出土遺物実測図	35
第40図	S X 1 検出遺物平断面図	36
第41図	S X 1 出土遺物実測図 1	37
第42図	S X 1 出土遺物実測図 2	38
第43図	遺構に伴わない出土遺物実測図 1	38
第44図	遺構に伴わない出土遺物実測図 2	39

表 目 次

(第23次調査)

第1表 小穴 (S P) 一覧表	14
第2表 溝 (S D) 一覧表	15

図 版 目 次

図版 一	第23次 調査区全景 (東から) 調査区北西部 (北から)
図版 二	第23次 I a 区 S K 1・S K 2・S K 7 (北から) I a 区 S K 1 (南から)
図版 三	第23次 I b 区 S K 10 (南西から) I b 区 S K 10庄内式壺 (南西から)
図版 四	第23次 I b 区 S K 8 (北東から) II b 区 S K 6 (南から)
図版 五	第23次 III c 区 S K 15 (南から) II c 区 S K 14・S D 9 (東から)
図版 六	第23次 土器集積 (東から)
図版 七	第23次 出土遺物 S K 10 1 S K 9 2 S K 15 3 遺構に伴わない出土遺物 8-11・14

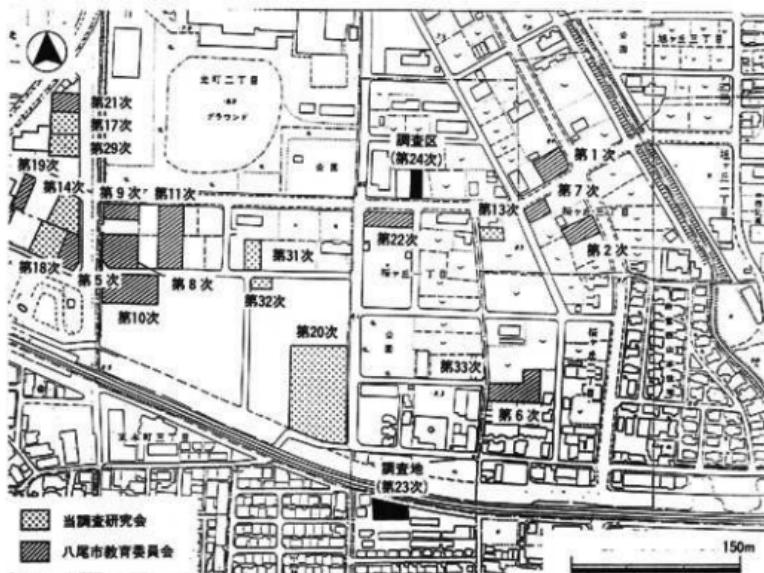
- 図版 八 第23次 出土遺物 遺構に伴わない出土遺物
- 図版 九 第24次 調査区全景（南西から）
北部全景（南西から）
- 図版 十 第24次 南部全景（南西から）
S D 3 (南から)
- 図版 一一 第24次 土器集積（南から）
土器集積（南から）
- 図版 一二 第24次 布留式壺（北から）
- 図版 一三 第24次 出土遺物 土器集積
- 図版 一四 第24次 出土遺物 S K 5 32 S X 1 33~35
- 図版 一五 第24次 出土遺物 S X 1 36~41
遺構に伴わない出土遺物 43
- 図版 一六 第24次 出土遺物 遺構に伴わない出土遺物

第1章 はじめに

東郷遺跡は、現在の行政区画では八尾市のほぼ中央部に当たる東本町・北本町・光町・桜ヶ丘・荘内町の一帯に所在する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。

当遺跡は、旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた標高9mの沖積地上に位置し、その中でも比較的早くより開けた地域である。周辺では、南東には東弓削遺跡・中田遺跡・小阪合遺跡、南には矢作遺跡、南西には成法寺遺跡、北には萱振遺跡、北西には宮町遺跡・佐堂遺跡・山賀遺跡などが存在している。

当遺跡の発見の契機は、昭和46年八尾東本町2丁目（光明寺裏付近）の水道管理設工事で現地表下約1.5mの地層内から奈良時代の墨書き面土器が出土されていることによる。それ以後、近鉄大阪線高架化及び八尾駅移設・八尾都市計画事業近鉄八尾駅前土地区画整理事業などの工事で、若干の遺物包含層が確認されている以外、当遺跡の実態が明確に把握されていなかった。



第1図 調査区位置図

しかし、その後、八尾市教育委員会が昭和56年1月に桜ヶ丘2丁目内で、店舗付住宅の建設工事に伴う試掘調査を実施した。その結果、古墳時代から鎌倉時代に至る遺物包含層を確認した。そして本格的な発掘調査が実施され、古墳時代前期（庄内式期）に比定される庄内式壇の出土、古墳時代中期から後期の遺構・遺物、平安時代前期の柱穴・井戸などの遺構が検出された。それ以後、八尾市教育委員会・当調査研究会が建設工事などに伴う発掘調査が実施された。現在（平成元年）迄に31件の調査を実施している。これらの調査の結果から、以下のようなことが明らかになった。弥生時代中期から近世に至る複合遺跡である。特に古墳時代前期（庄内式から布留式）の集落遺構が当遺跡範囲内に広く分布していることが判明し、居住域と墓域の集落構成が明らかに成りつつある。また、これらの遺構に伴う遺物が多量に出土しており、他地域との交流関係が盛んに行われていたことが判明した。

今回の発掘調査は、八尾市教育委員会・当調査研究会が実施した東郷遺跡内の調査の第23次調査と第24次調査に当たり、第23次調査は当遺跡の南西部付近で、第20次調査から南西部へ約50mに位置する。第24次調査は当遺跡内の北東部付近で、第22次調査から北東部へ約20mに位置する。

なお、これらの発掘調査は、当調査研究会が八尾市教育委員会の指示のもとで、実施したもので、それぞれの事業者と協議の上、事業者・八尾市教育委員会・当調査研究会の三者で協定書を結び、発掘調査を実施した。内業整理については、発掘調査終了後、遺物整理・図面整理・報告書作成などの作業を随時実施した。

参考文献

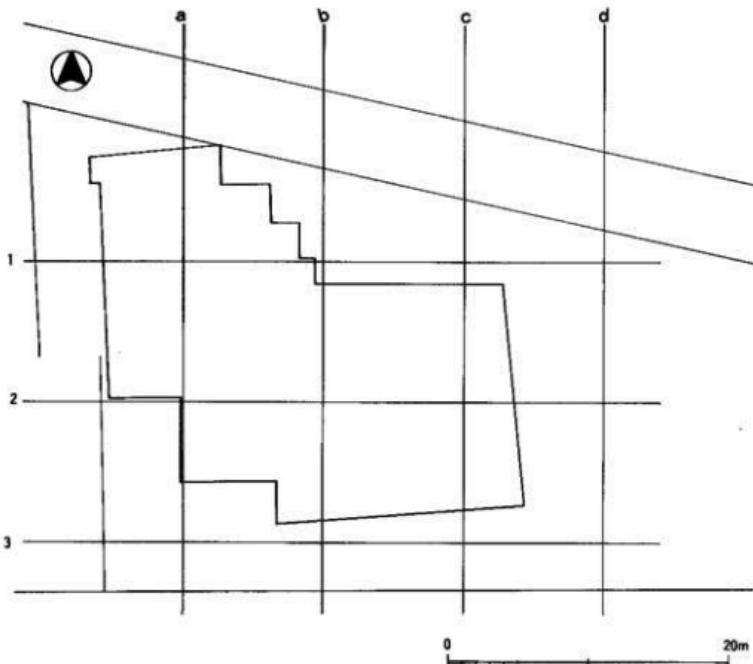
- 八尾市役所「八尾市史」 1958
- 八尾市教育委員会「八尾南遺跡範囲確認調査・東郷遺跡調査報告書」 1981
- 第八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡発掘調査概要報告」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和59年度」 第八尾市文化財調査研究会報告6 1985
- 第八尾市文化財調査研究会「Ⅲ東郷遺跡道路（第20次調査）」「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要 昭和61年度」 第八尾市文化財調査研究会報告13 1987
- 第八尾市文化財調査研究会「Ⅰ東郷遺跡（第11次～第16次・第18次調査）」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告」 第八尾市文化財調査研究会報告17 1989

第2章 第23次調査

第1節 調査の概要と方法

調査の方法は、八尾市教育委員会が行った試掘調査の結果に基づいて実施した。まず、建物の基礎工事によって埋没した遺跡が破壊される部分を対象に調査区を設定し、現地表下約1.3m（標高7m）までの土層を機械掘削で排除し、それより以下の各土層（古墳時代前期の包含層など）は人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。検出した遺構・遺物は写真・実測などによる記録保存の作業を実施した。

調査区の区割りは、調査地の北東部の土地境界杭を起点にして、南東部の土地境界杭の方向に合わせ調査区内に10m間隔の方眼を設定して調査を実施した。調査区の地区名は東西線の北から南へ数字（1～3）、南北線の西から東へアルファベット（a～d）を付して、検出した遺構・遺物の取扱を実施した。



第2図 調査区設定図及び区割り図

第2節 調査の結果

I 基本層序

当調査区で調査した現地表下から約1.8mまでの土層内で普遍的に存在する8層を抽出して基本層序とした。現地表面は標高8.3mを測る。

第1層 盛土：層厚1m。区画整理事業で造成して整地した盛り土である。

第2層 旧耕土：層厚10~15cm。整地されるまでの耕作土である。

第3層 緑灰褐色細砂泥シルト：層厚10~15cm。

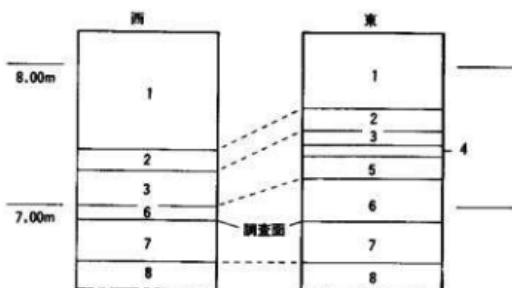
第4層 灰褐色細砂泥シルト：層厚15~20cm。

第5層 にぶい黄色粘土：層厚10cm。中世の水田土層と考えられる。

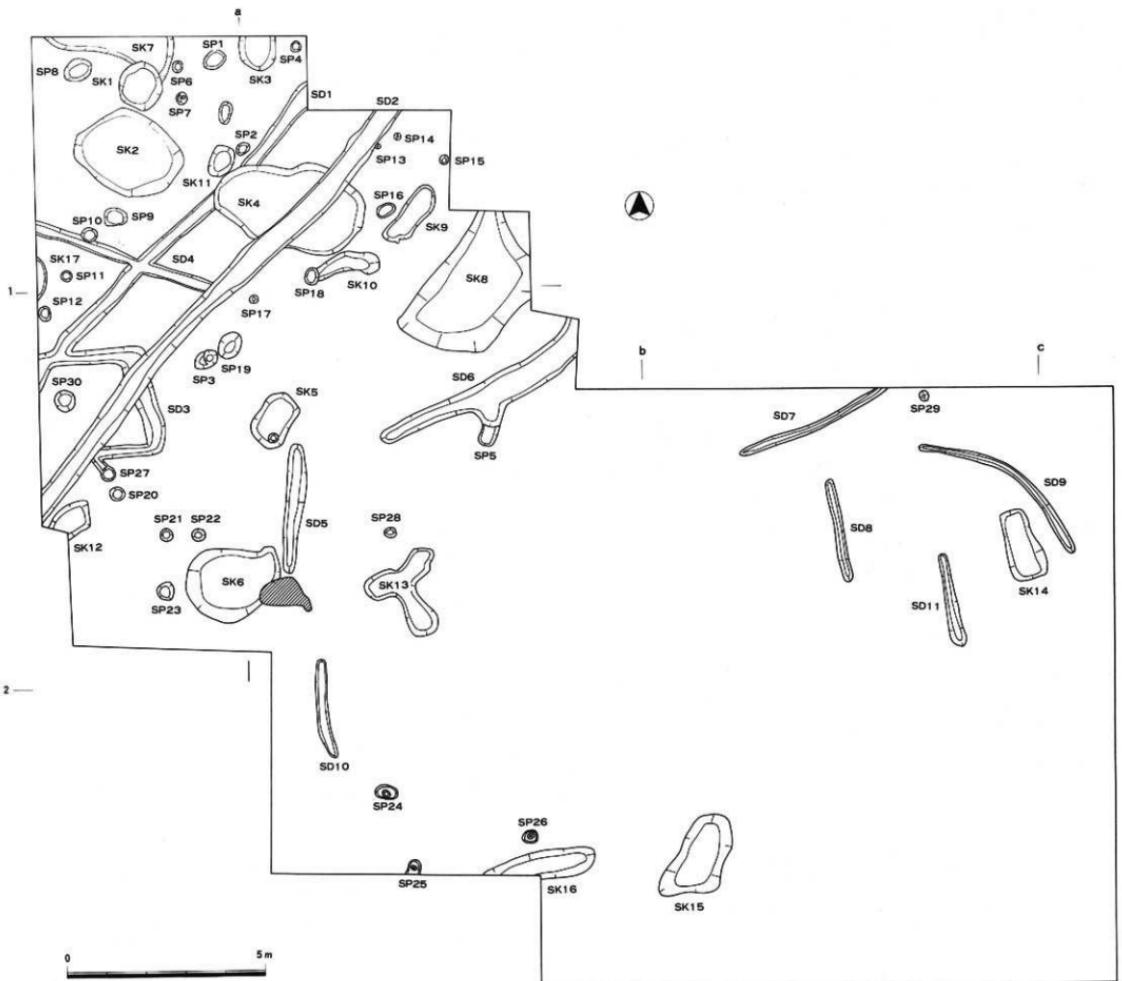
第6層 暗赤褐色~暗褐灰色粘土：層厚20~40cm。この土層内から古墳時代前期(庄内式期)の遺物が含まれており、調査区の東部に行くに従い層厚になり、遺物も濃厚になる。

第7層 明褐色シルト：層厚20~25cm。この上面から古墳時代前期の遺構が切り込まれおり、西側の高い部分には遺構が密集し、東側には少なくなり低い。標高は6.4~6.7mを測る。

第8層 灰色粘土：層厚10cm以上。若干の炭化物が含まれる。



第3図 基本層序柱状図 (S = 1/40)



第4图 遗址平面图

II 検出遺構・出土遺物

第4層の上面を調査面とした。その結果、調査区の南東部（2c～3c）では、幅2～3m、高さ20～30cmを測り、東西方向に伸びる畦畔状の高まりがある。この高まりは古墳時代前期（庄内式期）の包含層を盛り上げている。時期は庄内式期以降のものと考えられる。そして、この遺物包含層（約20～40cm）を取り除くと、下面にある明褐色シルト（南東側は淡灰黄色粘質シルト）の上面から庄内式期の遺構を検出した。庄内式期の遺構は、土坑16基・小穴30個・溝11条である。調査した遺構面は北西部が高く南東部へ傾斜し、低くなった地形である。北西部の高い部分には遺構が集中して検出した。以下、検出した各遺構について記す。

土坑（SK）

SK 1

1a区で検出した。平面はほぼ円形を呈する。SK 7を切っている。規模は検出部で、東西1.06m、南北1.22m、深さ26cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土はにぶい赤褐色粘質シルト・にぶい橙色粘質シルト・褐灰色シルト（少量の炭を含む）・浅黄橙色シルトである（第5図）。遺物は、内部から庄内

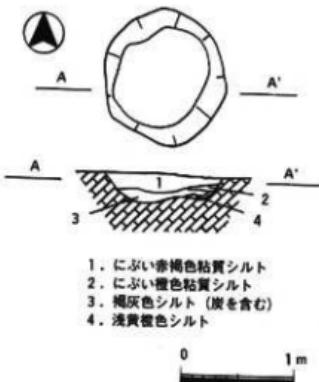
式の土器がごく少量出土している。

SK 2

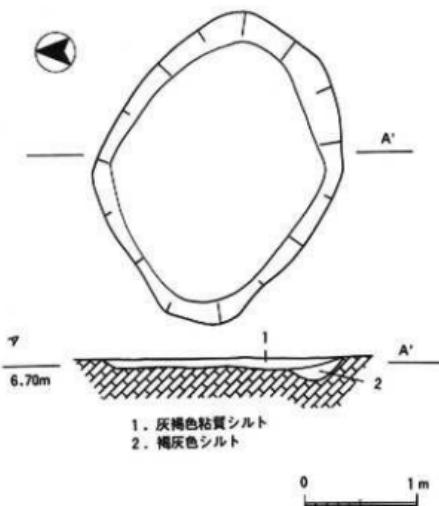
SK 1の南部で検出した。平面は楕円形を呈する。規模は検出部で、東西2.78m、南北2.17m、深さ20cmを測る。断面は浅い半円形を呈し、底面には若干の起伏が見られる。堆積土は灰褐色粘質シルト・褐灰色シルトである（第6図）。遺物は、内部から庄内式中相に比定される土師器の小片が少量出土している。

SK 3

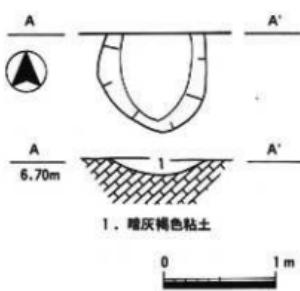
1b区で検出した。北部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東



第5図 SK 1 平断面図



第6図 SK 2 平断面図

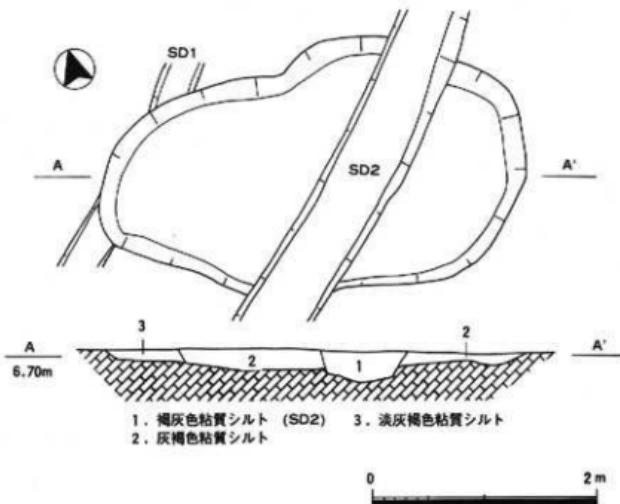


第7図 SK 3 平断面図

東西0.96m、南北1m、深さ14cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘土である（第7図）。遺物は、内部から庄内式壺の小片がごく少量出土している。

SK 4

1a・1b区で検出した。平面は梢円形を呈し、SD 1を切り、SD 2に切られている。規模は検出部で、東西3.78m、南北2m、深さ26cmを測る。断面は逆台形を呈し、内部には灰褐色粘質シルト・淡灰褐色粘質シルトが堆積している（第8図）。遺物は、内部から庄内式土器の小片が少量出土している。



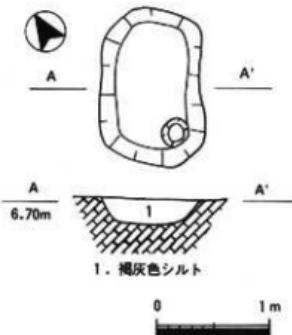
第8図 SK 4 平断面図

SK 5

2 b 区で検出した。平面は椭円形を呈する。規模は検出部で、東西1.4m、南北0.87m、深さ23cmを測る。断面は半円形を呈し、内部には褐灰色シルトが堆積している（第9図）。遺物は、内部から庄内式の土器の小片がごく少量出土している。

SK 6

2 a・2 b 区で検出した。平面は椭円形を呈し、東部の一部は擾乱されている。規模は検出部で、東西2.36m、南北1.87m、深さ22cmを測る。断面は半円形を呈し、内部には暗赤褐色粘質シルト・黒褐色粘土・灰黑色粘質土がレンズ状に堆積している（第10図）。遺物は、内部から庄内式の土器の小片がごく少量出土している。



第9図 SK 5 平断面図

S K 7

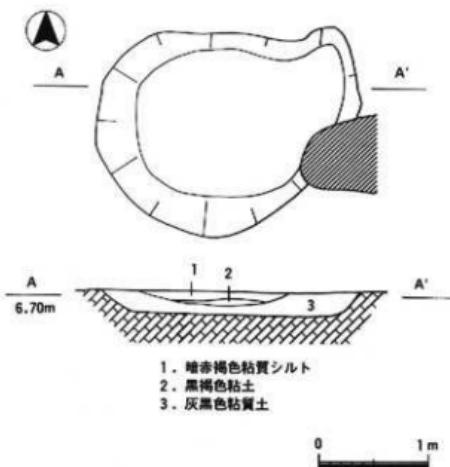
1 a 区で検出した。南部は S K 1 に切られ、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西 3.3m、南北 1.5m、深さ 16cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

S K 8

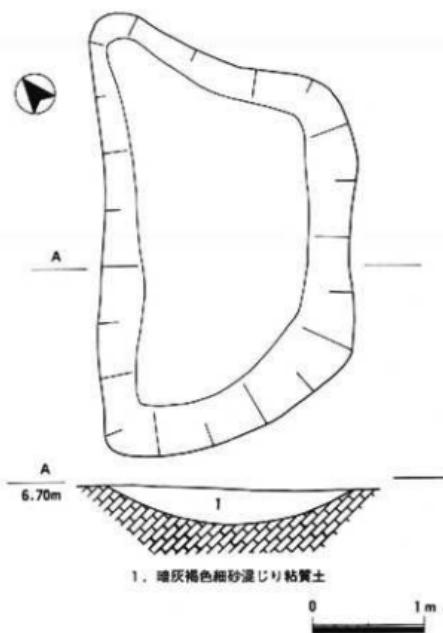
1 b・2 b 区で検出した。東部・北部の一部は調査区外に至る。平面の形状は検出部で、方形を呈する。規模は、東西 2.18m、南北 4.2m、深さ 33cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色細砂混じり粘質土である(第11図)。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

S K 9

1 b 区で検出した。平面は南西—北東に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、最大 1.7m、最小 0.58m、深さ 10cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は、暗灰褐色粘土である(第12図)。遺物は、内部から V 様式系縄文が出土している(第13図)。



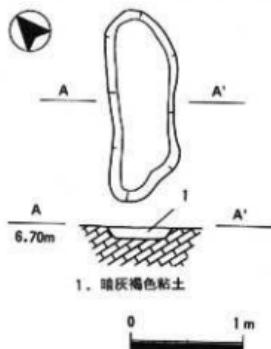
第10図 SK 6 平断面図



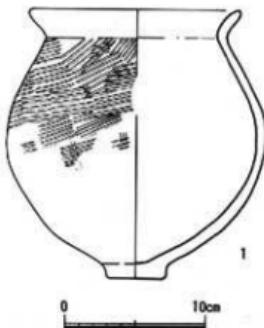
第11図 SK 8 平断面図

S K 10

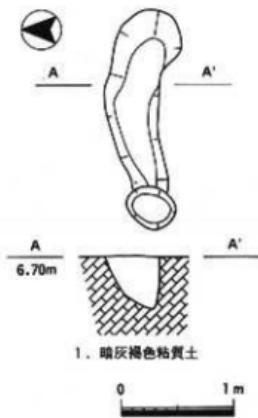
S K 9 の南西部（1 b 区）で検出した。平面は東西に長い楕円形を呈する。規模は検出部で、東西1.58m、南北0.48m、深さ46cmを測る。断面はU字形を呈し、内部には暗灰褐色粘質土が堆積している（第14図）。遺物は、底部付近から庄内式甕（2）1点が出土している（第15図）。



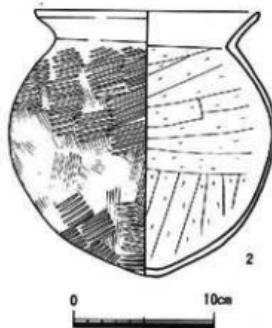
第12図 SK 9 平断面図



第13図 SK 9 出土遺物実測図



第14図 SK 10 平断面図



第15図 SK 10 出土遺物実測図

S K 11

S K 4 の北西部（1 a 区）で検出した。平面は橢円形を呈する。規模は検出部で、東西 0.58m、南北 0.83m、深さ 31cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗灰褐色粘質土である。遺物は出土していない。

S K 12

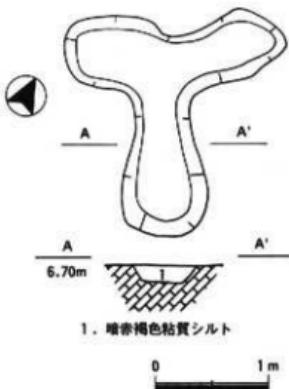
2 a 区で検出した。南西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、最大 1.0m、最小 0.6m、深さ 11cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。

S K 13

2 b 区で検出した。平面は不定形を呈する。規模は検出部で、最大 3.2m、最少 1.4m、深さ 25cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘質シルトである。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している（第16図）。

S K 14

調査区の東部（2 c・d 区）で検出した。平面は南北に長い橢円形を呈する。規模は検出部で、東西 0.9m、南北 1.86m、深さ 18cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は灰白色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。



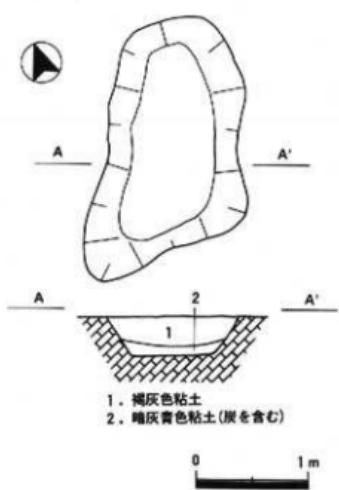
第16図 S K 13平面圖

S K 15

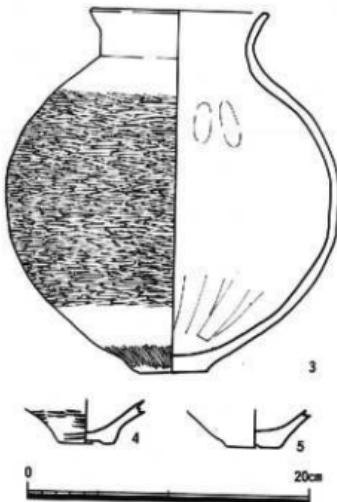
調査区の南部（3 c 区）で検出した。平面は橢円形を呈する。規模は検出部で、最大 2.09m、最小 1.14m、深さ 36cm を測る。断面は半円形を呈する。堆積土は褐灰色粘土・暗灰青色粘土（炭を含む）である（第17図）。遺物は、内部から庄内式の壺（3～5）のほか小片が少量出土している（第18図）。

S K 16

S K 15 の西部（3 b 区）で検出した。南西部は調査区外に至り、平面の形状は不明である。規模は検出部で、東西 2.94m、最小 0.72m、深さ 7cm を測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗赤褐色粘土である。遺物は、内部から庄内式土器の小片がごく少量出土している。



第17図 SK 15平面断面図



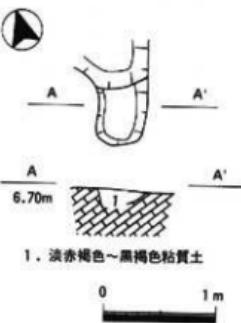
第18図 SK 15出土遺物実測図

小穴 (S P)

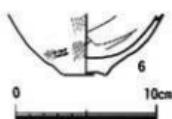
S P 1 ~ S P 30

調査区で30個の小穴を検出した。このうち、ほとんどの小穴は調査区西部に集中している。平面の形状は円形のもの（22個）がほとんどで、僅かに梢円形のもの（8個）がある。規模は径15~50cm、深さ10~40cmを測る。断面は逆台形及び逆凸形を呈する。内部の堆積土には、暗褐灰色粘質シルトがある。遺物は、内部からほとんど出土していないが、若干の小穴から出土しているものでは庄内式甕の小片がごく少量出土している。これらの小穴には、建物の柱穴と考えられるものが見られるが、調査区内では規則的な配列が見られなかった。また、S P 28は、掘形の周辺の土が光熱によって淡赤褐色に変色しており、住居に伴う炉跡状のようなものと考えられる。

以下、この小穴の法量・形状などについては第1表にまとめて記す。



第19図 SP 5平面断面図



第20図 SP 5出土遺物実測図

第1表 小穴(S P)一覧表

* 単位: cm

造構番号	地区	平面図	断面形	径	深さ	堆積土	備考
S P 1	1 a	楕円形	逆台形	56~60	21	暗褐色粘質シルト	
S P 2	1 a	円形	逆台形	32	5	暗褐色粘質シルト	
S P 3	2 a	楕円形	逆凸形	40~64	34	暗褐色粘質シルト	
S P 4	1 b	円形	逆台形	28	14	暗褐色粘質シルト	
S P 5	2 b	楕円形	逆台形	42~50	14	淡赤~黒褐色粘質土	炉跡
S P 6	1 a	円形	逆凸形	24	13	暗褐色粘質シルト	
S P 7	1 a	円形	逆凸形	28	13	暗褐色粘質シルト	
S P 8	1 a	楕円形	逆台形	46~64	16	暗褐色粘質シルト	
S P 9	1 a	円形	逆台形	50	8	暗褐色粘質シルト	
S P 10	1 a	円形	逆台形	34	16	暗褐色粘質シルト	
S P 11	1 a	円形	逆台形	26	15	暗褐色粘質シルト	
S P 12	2 a	円形	逆台形	30	17	暗褐色粘質シルト	
S P 13	1 b	円形	逆台形	14	7	暗褐色粘質シルト	
S P 14	1 b	円形	逆台形	20	14	暗褐色粘質シルト	
S P 15	1 b	円形	逆台形	20	19	暗褐色粘質シルト	
S P 16	1 b	楕円形	逆台形	30~46	5	暗褐色粘質シルト	
S P 17	2 b	円形	逆台形	20	8	暗褐色粘質シルト	
S P 18	1 b	円形	逆台形	34	23	暗褐色粘質シルト	
S P 19	2 a	楕円形	逆台形	54~72	18	暗褐色粘質シルト	
S P 20	2 a	円形	逆台形	36	7	暗褐色粘質シルト	
S P 21	2 a	円形	逆台形	32	15	暗褐色粘質シルト	
S P 22	2 a	円形	逆台形	32	21	暗褐色粘質シルト	
S P 23	2 a	円形	逆台形	44	12	暗褐色粘質シルト	
S P 24	3 b	楕円形	逆凸形	32~54	17	暗褐色粘質シルト	
S P 25	3 b	楕円形	逆凸形	26~36	20	暗褐色粘質シルト	
S P 26	3 b	円形	逆凸形	26	34	暗褐色粘質シルト	
S P 27	2 a	円形	逆台形	32	49	暗褐色粘質シルト	
S P 28	2 b	円形	逆台形	20	10	暗褐色粘質シルト	
S P 29	2 c	円形	逆台形	20	19	暗褐色粘質シルト	
S P 30	2 a	円形	逆台形	50	21	暗褐色粘質シルト	

溝 (S D)

S D 1 ~ S D 11

調査区で11条を検出した。これらの溝の方向は東西・南北・南西-北東方向や弓状に円弧を描くものなどがあり、統一性がない。規模は幅10~80cm、深さ4~30cmを測る。断面はほとんど半円形を呈し、一部(S D 4)にU字形が見られる。堆積土は暗灰褐色シルトである。遺物は、内部からほとんど出土していない。一部の溝で庄内式土器の小片がごく少量出土しているだけである。

以下、これらの法量・形状などについては第2表に一括して記す。

第2表 溝 (S D) 一覧表

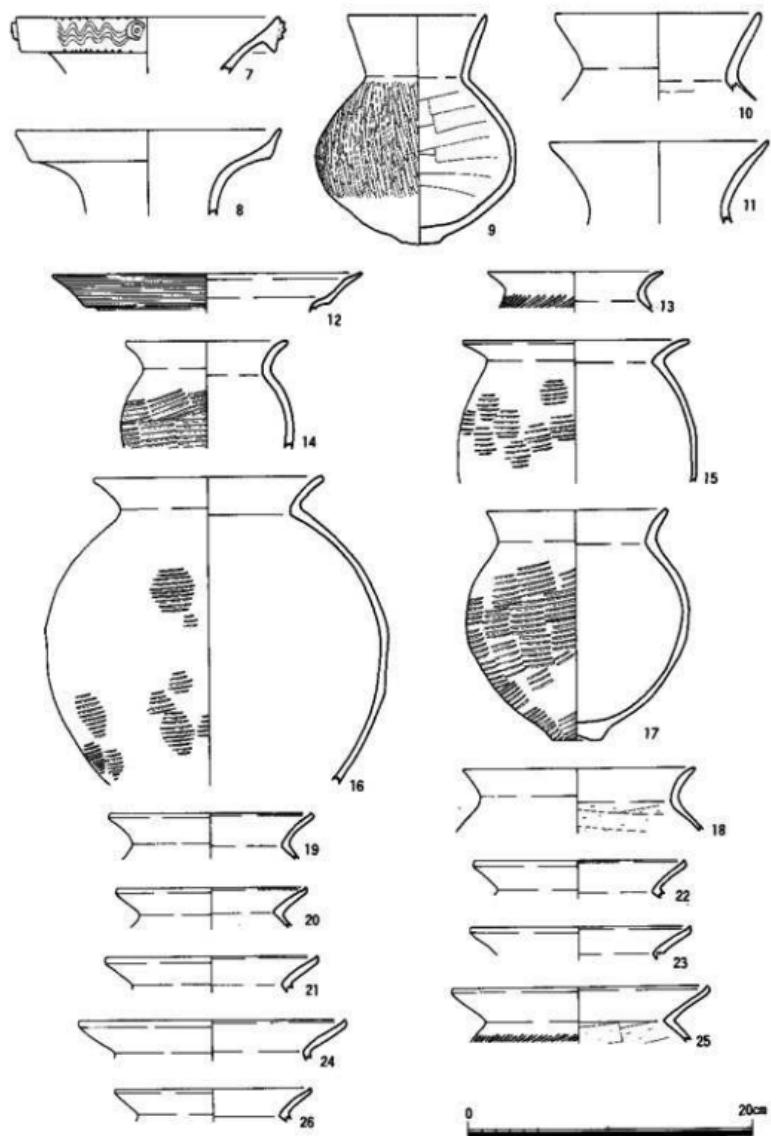
* 単位: cm

遺構番号	地区	方向	幅	深さ	断面形	堆積土	備考
S D 1	1 b ~ 2 a	南西-北西	40	19	半円形	暗灰褐色粘質シルト	
S D 2	1 b ~ 2 a	南西-北西	70	27	半円形	褐色粘質シルト 褐色粘質シルト	
S D 3	2 a	南-西	54	21	半円形	褐色粘質シルト 褐色粘質シルト 明褐色シルト	
S D 4	1 a ~ 2 a	南東-北西	30	25	U字形	褐色粘質シルト	
S D 5	2 b	南-北	50	26	半円形	褐色シルト	
S D 6	2 b	南西-北東	80	25	半円形	暗灰褐色粘質土	
S D 7	2 c	南西-北東	20	7	半円形	暗灰褐色粘質土	
S D 8	2 c	南-北	24	6	半円形	暗灰褐色粘質土	
S D 9	2 c ~ 2 d	東-西	22	7	半円形	暗灰褐色粘質土	
S D 10	2 b ~ 3 b	南-北	26	30	半円形	暗灰褐色粘質土	
S D 11	2 c	南-北	30	17	半円形	暗灰褐色粘質土	

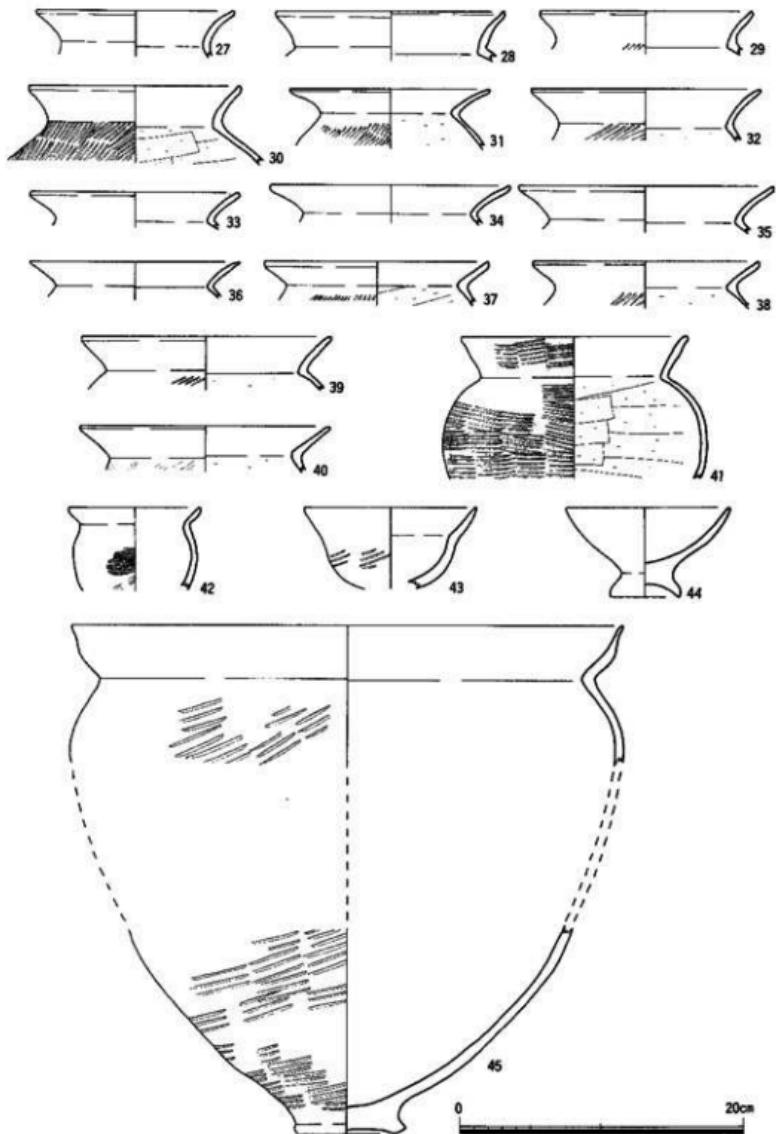
III 遺構に伴わない遺物

第3~5層内で古墳時代~江戸時代に至る遺物が出土している。出土量はコンテナにして約10箱分である。特に第5層内では古墳時代前期の遺物包含層と考えられ、この内部から庄内式土器の破片が多量に出土している。それも遺構があまり存在しない東部に集中している。第15図のように集積した土器群を検出している。

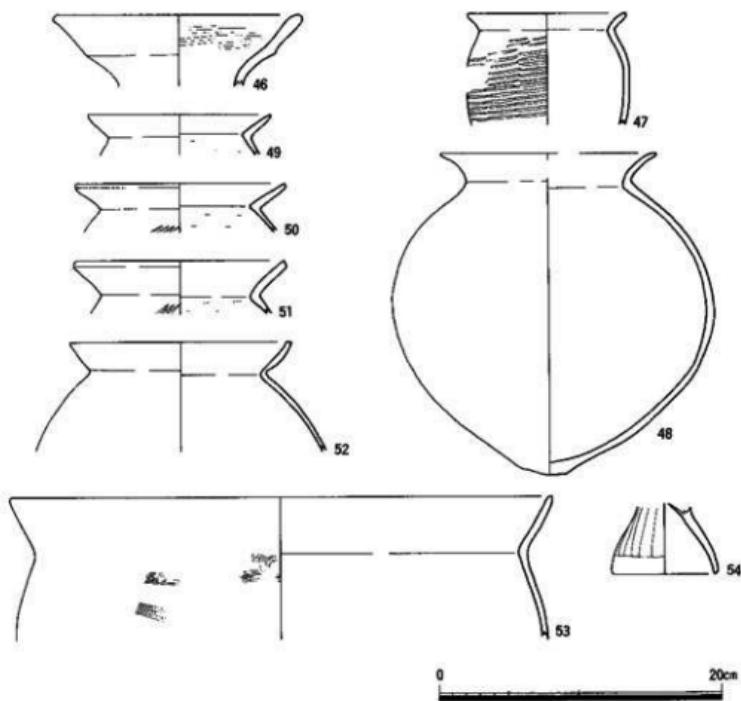
以下、図示できたものは、第5層内で集積して出土した一括土器である庄内式古相~中相の壺(7~12)・第V様式系壺(13~18)・庄内式壺(19~40)・壺(41)・鉢(42~44)・大型の鉢(45)である(第21・22図)。他地区の土層内から壺(46)・第V様式系壺(47)・庄内式壺(48~51)・布留式壺(52)・鉢(53)・壺?脚部(54)である(第23図)。



第21図 造橋に伴わない出土遺物実測図



第22図 造形に伴わない出土遺物実測図2



第23回 造橋に伴わない出土遺物実測図 3

第3節　まとめ

第23次調査は、東郷遺跡推定範囲内の南東部に位置する調査地である。調査の結果では、主として古墳時代前期に比定される集落に関連する遺構が検出された。この時期の集落構成は当遺跡の中央部で住居域を検出しており、その南部と北部では墓域（方形周溝墓・土坑墓）が検出されていることが明らかになっている。今回は南部で墓域を検出している第20次調査の調査地から南東へ約80mに位置するところでありながら新たな住居域を検出されたことは、中央部で検出した住居域とは別の集落集団であろう。この構成からみると、住居域と住居域との間にある墓域で区画した近接する集落構成であることが窺える。

以上、今回の調査で得られた結果、古墳時代前期（庄内式）の集落構成を知る上で貴重な資料を得ることが出来た。

第4節 出土遺物観察表

遺物番号 回収番号	器種	重量 (g)	口径 基底	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1 七	甕 (土瓶器)	口 径 14.6 器 高 19.0 最大径 18.5 底 径 3.6	L1	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に平ら。端部は丸い。底部は突出した平底。	淡灰褐色	3mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を 少量含む。	良好	焼付着。
2 七	同上	口 径 16.0 器 高 18.9 最大径 19.2	SK9	球形の体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に平ら。端部はつまみ上げる。底部は突出気味の平底。	淡褐色	4mm以下の 雲母・長石 ・角閃石等 の砂粒を少 量含む。	良好	焼付着。
3 七	甕 (土瓶器)	口 径 12.0 器 高 26.0 最大径 23.6 底 径 4.8	SK10	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に凹凸。端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の平底。	淡褐色	8mm以下の 長石・雲母 ・角閃石等 の砂粒を多 量に含む。	良	完形。 黒斑有。
4 七	同上	底 径 3.8	SK15	底部は突出気味の底み底。口縁部・体部は欠損。 外面タタキ、内面剥離のため調整不明。	淡灰茶色	4mm以下の 長石・石英 等の砂粒を少 量含む。	良	
5 七	同上	底 径 3.8	SK15	底部は突出しない平底。口縁部・体部は欠 損。 外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡灰茶色	3mm以下の 雲母・長石 ・角閃石等 の砂粒を少 量含む。	良好	黒斑有。
6 七	同上	底 径 3.0	SP5	底部は突出気味の平底。口縁部・体部は欠 損。 外面ハケナデ、内面ヘラナデ。	淡灰茶色	3mm以下の 角閃石・ 雲母・ 長石等 の砂粒を少 量含む。	良好	黒斑有。
7 七	同上 包含層	口 径 18.6		口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は垂 下し外側一面をもつ。体部は欠損。 口縁部外側ヘラミガキ、瘤面状状。	淡灰茶色	4mm以下の 長石・角閃 石を少量含 む。	良	黒斑有。
8 七	同上 包含層	口 径 18.7		口縁部は外上方へ外反して伸びた後、上外 方へ伸びる。端部はつまみ上げる。体部は欠 損。 口縁部外側削離のため調整不明。	淡灰茶色	5mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良	
9 七	同上 包含層	口 径 9.6 器 高 16.3 最大径 14.1		そろばん形の体部から屈曲し、上外方へ 伸びる口縁部に凹凸。端部は丸く尖る。底部 は突出しない平底。	淡灰茶色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好	完形。
10 七	同上 包含層	口 径 14.2		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上外方へ伸びる口縁部に凹凸。端部は丸い。 体部は欠損。 口縁部内側凹下位に接合痕有り。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡褐色	4mm以下の 長石・雲母 等の砂粒を少 量含む。	良	
11 七	同上 包含層	口 径 15.2		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は 鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面摩滅のため調整不明。	淡褐色	6mm以下の 長石等の砂 粒を多量に 含む。	良	
12 七	同上 包含層	口 径 21.8		体部より大きく外反し、上外方へ外反気味 に伸びる口縁部に凹凸。端部は鋭く尖る。体 部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 乳灰茶 色 内 淡灰乳 色	2mm以下の 長石等の砂 粒を微量含 む。	良好	
13 七	甕 (土瓶器) 包含層	口 径 12.2		体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸び る口縁部に凹凸。端部は鋭く尖る。体部は欠 損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ (44)。	乳灰褐色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特長	色調	断土構成	備考
14	甕 (土器部)	口 径 11.4 最大径 12.2		上内から内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面摩滅のため不明。	乳灰褐色	5mm以下の 長石・雲母等の砂粒を 少量含む。	
							蓋付着。
15	同上 (土器部)	L1 径 15.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	外 淡褐色 内 淡灰褐色 断面 黒灰色	3mm以下の 長石・雲母等の砂粒を 少量含む。	
16	同上 包含層	口 径 16.0 最大径 24.4		球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びるLJ 縫部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ナデ、 中位以下タタキ(4本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡褐色 断面 灰黑色	4mm以下の 長石・石英等の砂粒を 少量含む。	良好
							黒底有。
17	同上 包含層	口 径 12.6 器 高 16.4 最大径 15.8 底 径 3.2		球形の体部から屈曲し、上外方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味のあけ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	乳灰褐色	4mm以下の 雲母・長石・角閃石等の砂粒を少 量含む。	良
							完形。
18	同上 包含層	口 径 16.2		内上方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面摩滅のため調整不明、内面ヘラ削り。	乳灰色	4mm以下の チャート等の砂粒を含む。	良好
19	同上 包含層	口 径 14.2		LJ縫部は上外方へ外反気味で伸び、端部はつまみ上げ外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	2mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好
20	同上 包含層	口 径 13.4		LJ縫部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	2mm以下の 長石等の砂粒を極微量含む。	良好
21	同上 包含層	口 径 15.0		口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶褐色	2mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好
22	同上 包含層	口 径 14.8		口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	2mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良
23	同上 包含層	口 径 15.4		口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 LJ縫部内外面ヨコナデ。	茶褐色	1.5mm以下の 長石等の砂粒を微量含む。	良好
24	同上 包含層	口 径 18.8		口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまみ上げる。体部は欠損。 LJ縫部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	3mm以下の 長石・赤褐色化粧等の砂粒を微量含む。	良好
25	同上 包含層	口 径 18.0		口縁部は斜上方へ伸び、端部内方に肥厚する。体部は欠損。 LJ縫部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	3mm以下の 長石・角閃石・雲母等の砂粒を含む。	良好

遺物番号 開版番号	器種	法量 (cm)	口径 深さ	形態・調査等の皆長	色	質	胎土	焼成	備考
26	甕 (十節器)	口 径 13.8		口縁部は斜上方へ伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2.5mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好		
27	同上	口 径 14.0		体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。 口縁部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側へラ削り。	乳灰茶色	4mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好		
28	同上	口 径 16.0		体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまむ。 体部は欠損。 山縁部内外面ヨコナデ、体部外側へラ削り。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・雲母等の 粗砂粒を少 量含む。	良好		
29	同上	口 径 14.8		体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまむ。体部は欠損。 山縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ。	乳灰褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒を少 量含む。	良好		
30	同上	口 径 15.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(5本)、内面へラ削り。	淡茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石・石英等の 粗砂粒を少 量含む。	良好		
31	同上	口 径 14.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。体部中位以下欠損。 山縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(6本)、内面へラ削り。	淡茶褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少 量含む。	良好		
32	同上	口 径 16.0		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(4本)、内面へラ削り。	外 乳茶淡 色 内 褐灰色	1mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少 量含む。	良		
33	同上	口 径 14.8		口縁部は上外方へ伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少 量含む。	良好	縦付着。	
34	同上	口 径 16.8		口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	3mm以下の 長石等の砂 粒を少 量含む。	良好		
35	同上	口 径 17.8		口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部はつまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2.5mm以下の 黄玉等の 砂粒を少 量含む。	良		
36	同上	口 径 15.0		口縁部は上外方へ伸び、端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	2mm以下の 角閃石・長 石等の砂 粒を少 量含む。	良好		
37	同上	口 径 15.7		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に曲をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(4本)、内面へラ削り。	茶褐色	2mm以下の 長石・角閃 石等の砂 粒を少 量含む。	良好		
38	同上	口 径 15.6		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タタキ(4本)、内面へラ削り。	褐褐色	2mm以下の 長石等の砂 粒を少 量含む。	良好		

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成備考
38	壺 (土師器) 包含層		口 径 17.8	体部から屈曲し、上外型へ伸びる口縁部に至る。端部は側面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外端タキ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	2mm以下の長石等を少量含む。	良好
40	同上		口 径 17.6	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外端ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡褐色	3mm以下の砂粒を少量含む。	良好
41	同上	口 径 16.0 最大径 18.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 体部中位以下欠損。 口縁部外端タキ (4本) 後ハケナデ (5本)、内面ヨコナデ、体部外端タキ (4本) 後ハケナデ (5本)、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	3mm以下の長石・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好 腹付有。
42	鉢 (土師器) 包含層		口 径 9.2	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は欠損。 口縁部外端調整不則、内面ヨコナデ、体部外端ハケナデ後ヘラカギ、内面ナデ。	淡茶灰色	3mm以下の長石・角閃石・長石等の砂粒を少量含む。	良好
43	同上		口 径 12.0	上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。 端部は強く尖る。底部は欠損。	淡茶灰色	5mm以下の長石等の砂粒を少量含む。	良好 黒斑有。
八	包含層			口縁部内外端調整のため不則、体部外端タキ (4本)、内面調整のため不則。			
44	台付鉢 (土師器) 包含層	口 径 11.4 器高 6.4 最大径 4.8		子彫形の体部から直上して伸びる口縁部に至る。端部は強く尖る。底部は突出したあげ底。 体部内外面ナデ、底部外端ナデ、内面ヘラ削り。	褐色	4mm以下の砂粒を少量含む。	良好
45	大形鉢 (土師器) 包含層	口 径 39.0 底 径 6.8		上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内湾気味に伸びる口縁部に至る。底部は突出したあげ底。体部中位欠損。 口縁部外端ヨコナデ。内面調整のため調整不明。体部外端タキ (2本)、内面ナデ、底部内外面ナデ。	乳茶灰色	8mm以下の長石等の砂粒を多量に含む。	良 黑斑有。
46	壺 (土師器) 包含層	口 径 17.2		口縁部は上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外端調整のため調整不明、内面ハケナデ (5本)。	外 乳茶灰色 内 淡茶褐色	6mm以下の長石・石英・雲母等の砂粒を多量に含む。	良
47	壺 (土師器) 包含層	口 径 11.2 最大径 11.5		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ強く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位は欠損。 口縁部は内面ヨコナデ、体部外端タキ (3本)、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 暗褐色	3mm以下の雲母・長石・石英等の砂粒を少量含む。	良
48	同上	口 径 15.2 器高 22.9 最大径 22.8		そろばん彫形の体部から屈曲し、上外方へ内輪気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 底部は尖り気味。 口縁部は体部内外面のため調整不明。	淡茶灰色	5mm以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。	良 黑斑有。
49	同上	口 径 13.0		体部から屈曲し、斜上方へ強く伸びる口縁部に至る。端部は強く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外端タキ、内面ヘラ削り。	淡茶灰色	5mm以下の長石・角閃石・石英等の砂粒を含む。	良
50	同上	口 径 14.9		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部はまづまづ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外端タキ、内面ヘラ削り。	暗褐色	2.5mm以下の長石・雲母・角閃石等の砂粒を少量含む。	良

遺物番号 図版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特長	色調	胎土	焼成備考
51 包合層	甕 (土器部)	口 径 14.8		体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外輪の面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナギ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	1 mm以下の 長石等の砂 粒を極微量 含む。	良好
52 同上 八 包合層	同上	口 径 15.6		上内方へ内済気味に伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上に面をもつ。体部中位以下欠損。 口縁部・体部内外面削離のため調整不明。	乳茶灰色	2 mm以下の 長石・石英 ・赤褐色鐵 化鉱を微量 含む。	良
53 鉢 (土器部) 包合層	口 径 38.4			上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面削離のため調整不明、体部外 面ハケナゲ(10本)、内面削離のため不明。	淡茶灰色	3 mm以下の 長石等の砂 粒を少量含 む。	良好 加灰有。
54 台付甕? (土器部) 八 包合層	底 径 7.0			脚部は下外方へ内済気味に伸び、端部は丸い。体部以上欠損。 脚部外側ヘラナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	3 mm以下の 角閃石・長 石・雲母等 の砂粒を少 量含む。	良

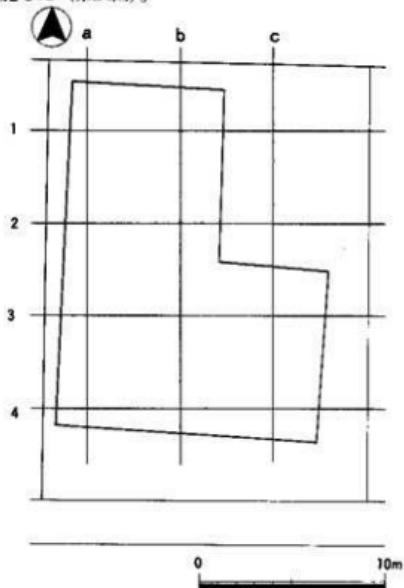
第3章 第24次調査

第1節 調査の概要と方法

今回の発掘調査は八尾市桜ヶ丘3丁目124-1の共同住宅の建設に伴うもので、八尾市教育委員会・当調査研究会が当遺跡内で実施した発掘調査の第24次調査にあたる。調査地は、当遺跡範囲内の北東部に位置し、第22次調査の北部へ約30mのところに隣接する。

調査の方法は、八尾市教育委員会の指示に基づいて実施した。まず、建設の基礎工事によって埋没した遺跡が破壊される部分を対象に調査区を設定した。現地表下約1.3m（標高7m）までの土層を機械で掘削した。それより以下の各土層については、人力掘削を実施して遺構・遺物の検出に努めた。検出した遺構・遺物は写真・実測などの記録作業を実施した。

調査区の区割り方法については、八尾市若草町2丁目内に所在する大阪府住宅供給公社の山本団地1号棟屋上の三角点（B = 343721.511 L = 1353646.899）から調査地の南東角（土地境界杭）に移設した。この基点（値はX = -152 934.478 Y = -34 960.985）を基準として調査区に5m方眼の区割りを行った。地区名は東西線が北から1~4、南北線が西からa~cを付称して、調査を実施した（第24図）。



第24図 調査区設定図及び区割り図

第2節 調査の結果

調査区は、当遺跡範囲内の北東部に当り、第22次調査地から北東部へ約20mに位置する。調査面積は258m²を測る。

I 基本層序

当調査区で検出した。現地表から約2mまでに存在する土層から普遍的に見られる6層を抽出して基本層序とした（第25図）。現地表面は標高8.3mを測る。

第1層 盛土：層厚1m。昭和54～55年度に区画整理事業の造成によって整地された土層で、上部は調査前まで畑である。

第2層 旧耕土：層厚10～15cm。区画整理で整地されるまでの水田土層である。

第3層 明赤褐色シルト：層厚40～60cm。少量の砂粒（3～8cm）を含み、古墳時代～平安時代末に至る遺物の小片が含まれている土層で、平安時代末に比定される整地層である。隣接する既往調査（第13次調査）では古墳時代から鎌倉時代に至る土器が多量に混在していた。

第4層 灰オリーブ色シルト：層厚5～10cm。古墳時代前期（布留式古相）の遺物を含む包含層と考えられるが、調査区の大半が整地層で削平されており、この上面では古墳時代中期と考えられる占墳が削平された状態で検出している。

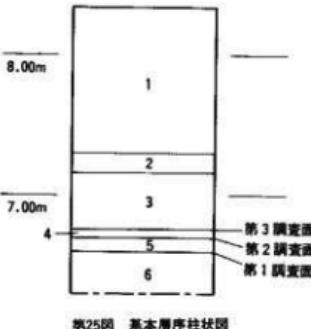
第5層 にぶい黄褐色細砂泥シルト：層厚10cm。弥生時代後期の遺物が少量含まれているが、第4層と同様、平安時代末の整地層で調査区の大半が削平されている。また、この上面から布留式古相の遺構が切り込まれている。

第6層 明赤褐色シルト：層厚30cm。弥生時代後期の遺構が切り込まれており、この上面を調査面（第1調査面）とした。標高は6.6mを測る。

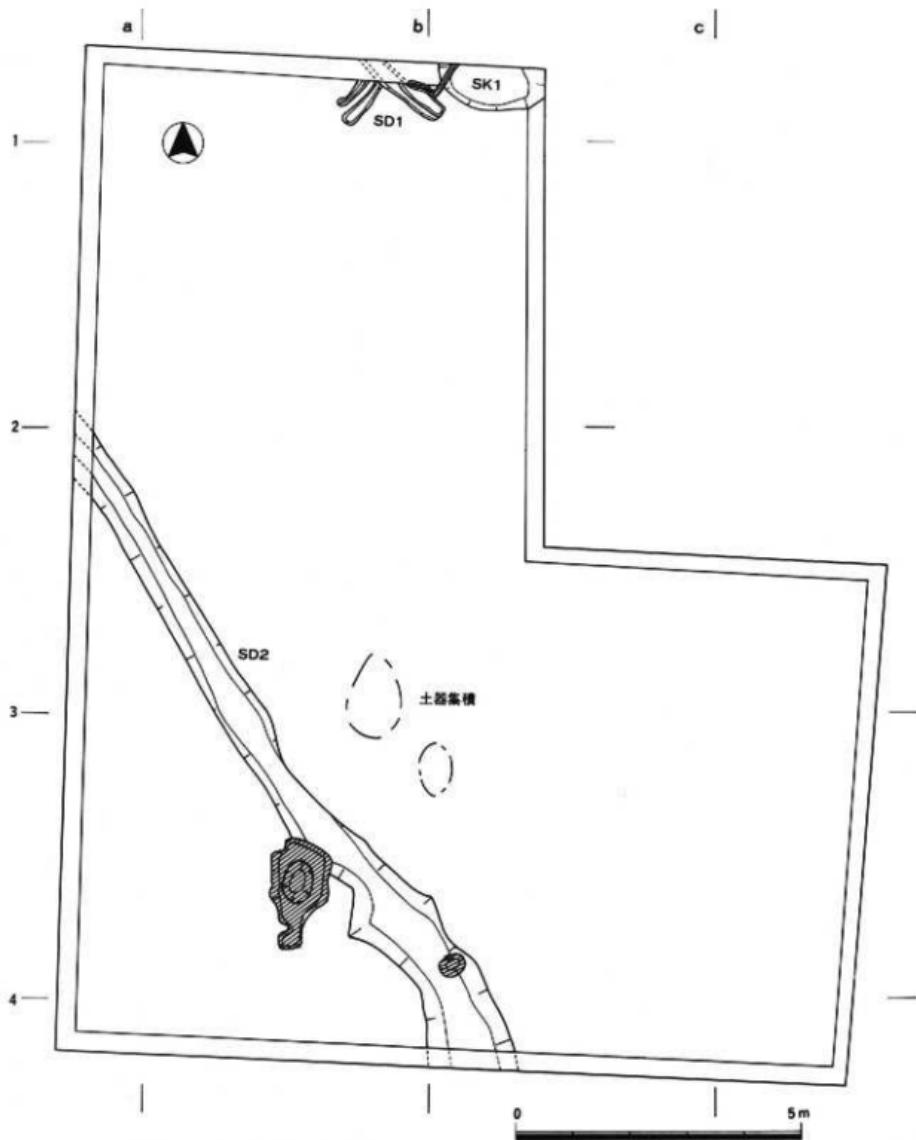
II 検出遺構・出土遺物

調査の結果、弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代中期・鎌倉時代・近世の概ね4時期の遺構・遺物を検出した。遺物量はコンテナ箱にして7箱分を数える。

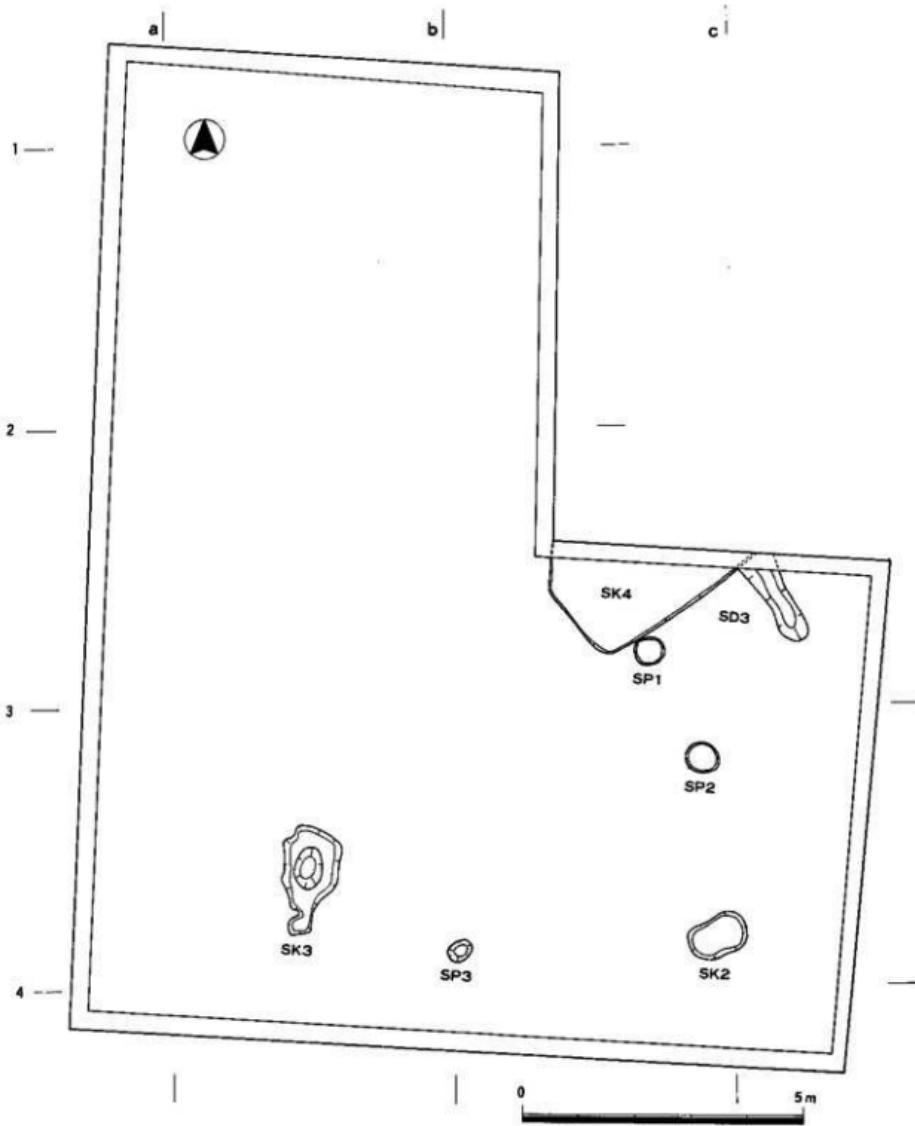
遺構は、標高6.5mを測る第6層上面から弥生時代後期に比定される土坑1基・土器集積2



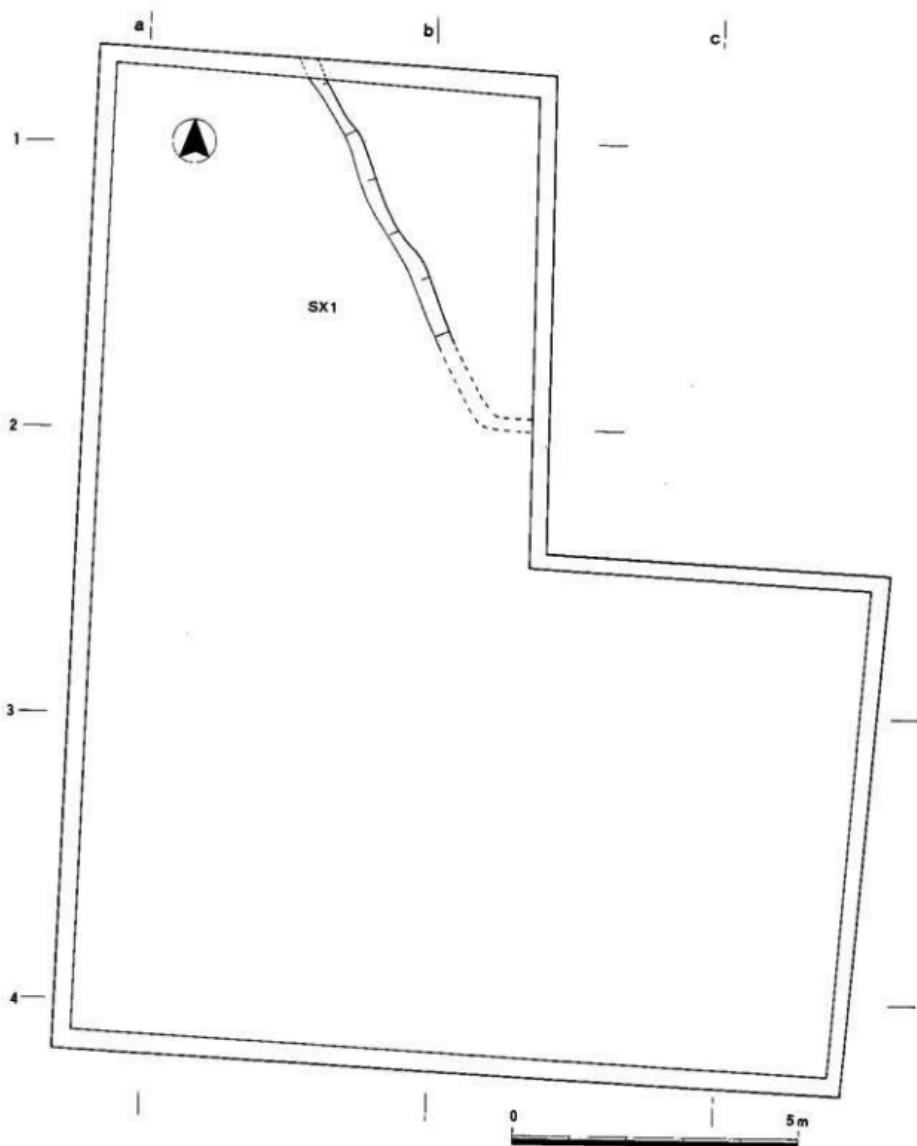
第25図 基本層序柱状図



第26図 第1調査面造構平面図



第27図 第2調査面遺構平面図



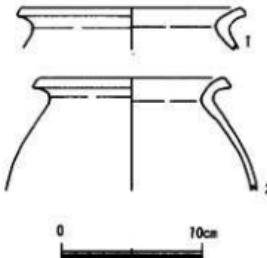
第26図 第3調査面透構平面図

箇所・溝2条を検出した。第4層上面から古墳時代前期に比定される土坑3基・小穴3個、溝1条を検出した。これらの遺構は弥生時代後期の遺構を削平して切り込んだ状態で検出した。1b～2c区の第3層上面から古墳の周濠と思われる溝(SX1)を検出した。以下、検出した遺構・遺物について各時期ごとに記す。

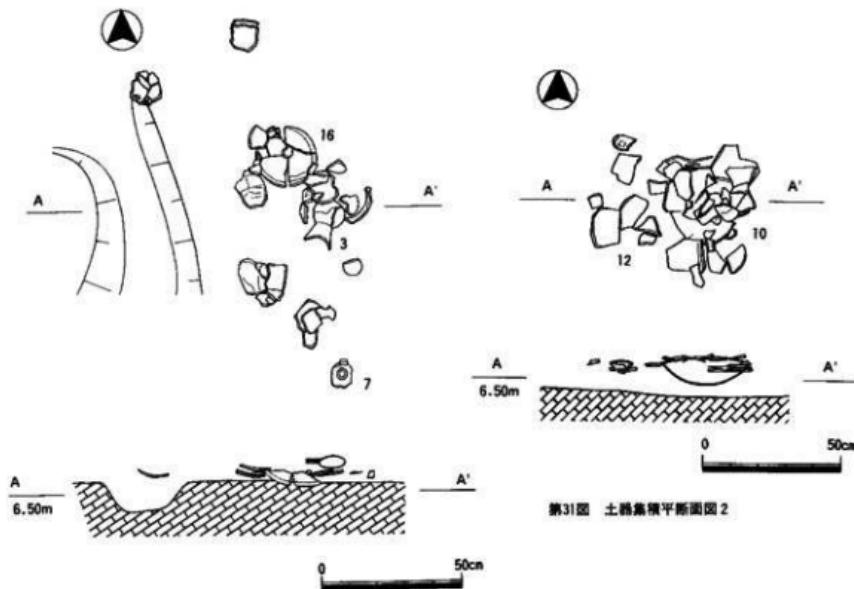
弥生時代後期

土坑(SK1)

調査区北部(1c区)の北壁付近で検出した。北部は調査区外に至る。規模は検出部で、東西1.2m、南北0.6m以上、深さ20cmを測る。平面は検出部で半円形を呈し、断面は基底面に起伏が見られる浅い半円形を呈する。堆積土は、灰褐色シルトである。遺物は、内部から畿内第V様式に比定される甕(1・2)が出土している(第29図)。

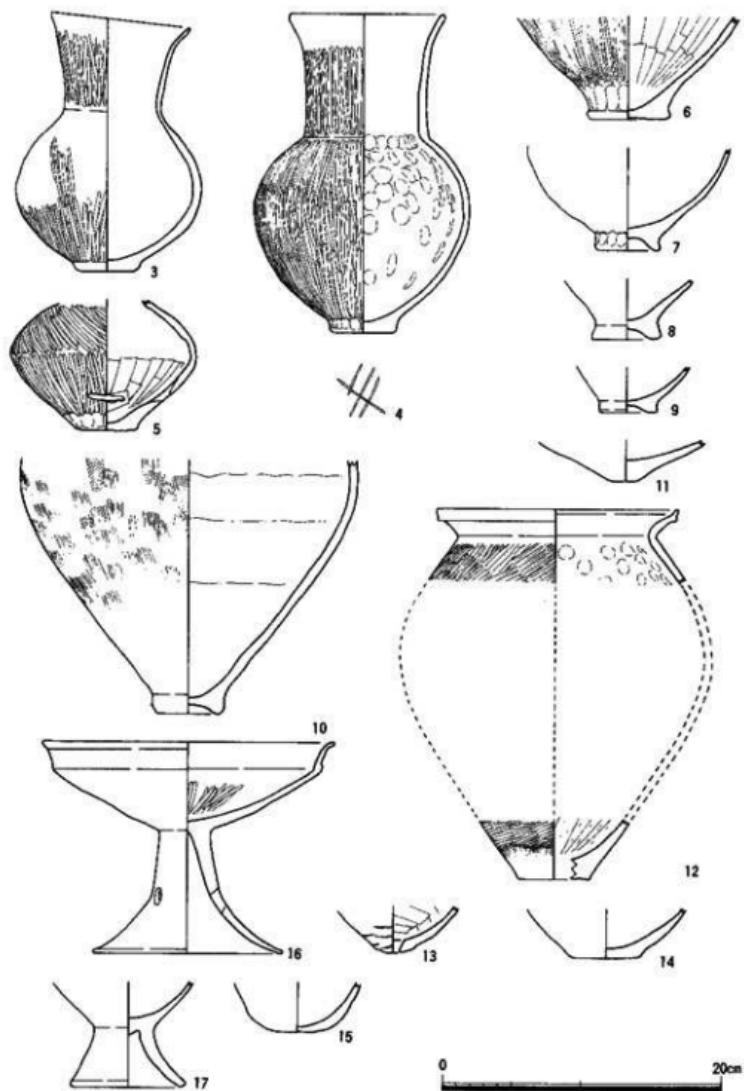


第29図 SK1出土遺物実測図

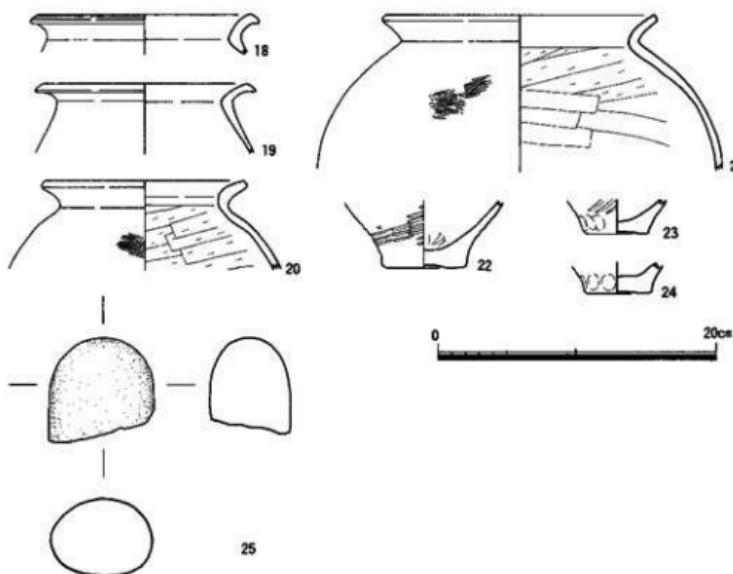


第30図 土器集積平面図1

第31図 土器集積平面図2



第32圖 土器集積出土遺物實測圖1



第33図 土器集積出土遺物実測図2

土器集積

調査区の中央部(4 b 区)で2箇所に分散した状況で検出した。検出面は基本層序の第6層上面で掘形の形状がなく、土器片が集積した状況であった。土器は、畿内第V様式に比定されるもので、個体数にして22点である。器種構成は、セット関係をもつもので長頸壺(3~10)・壺(11)・甌(12~18~24)・有孔鉢(13)・鉢(14~15)・高杯(16~17)がある(第32・33図)。

その他には、叩き石の破片と考えられる石器(25)が1点出土している。

溝(S D)

S D 1

1 b・c 区で検出した。検出部での平面の形状は2重になった「へ」の字形を呈する。規模は検出部で、幅10~30cm、深さ5~10cmを測る。堆積土は灰褐色砂疊である。遺物は、内部から庄内式甌の破片が少量出土している。

S D 2

2 a~5 c 区で検出した。南東~南西方向に走る溝である。規模は検出部で、幅0.8~1.1m、深さ30cmを測る。断面は摺り鉢形を呈する。堆積土は灰褐色シルトである。遺物は出土していない。

古墳時代前期

土坑（SK）

SK 2

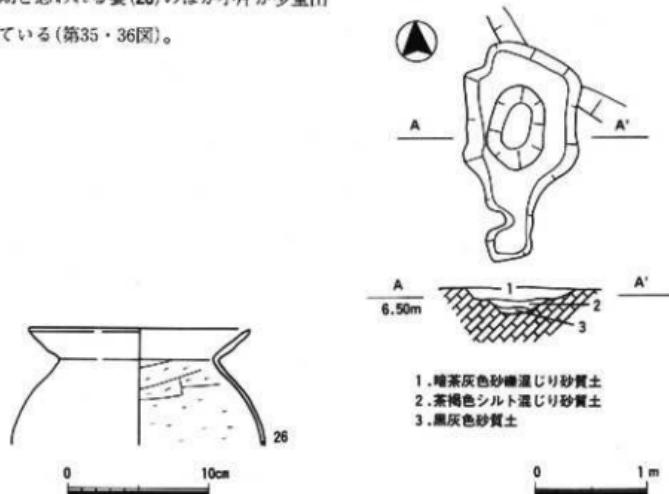
4 c・d 区で検出した。平面は梢円形を呈する。規模は検出部で、長径0.9m、短径0.5m、深さ20cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は淡茶灰色細砂混じり砂質土・灰白色細砂質土である。遺物は出土していない（第34図）。

SK 3

4 b 区で検出した。平面は方形で、南部に角状の突出部がある。規模は検出部で、長径1.3m、短径0.8m、深さ35cmを測る。断面は逆台形を呈する。堆積土は暗茶灰色砂礫混じり砂質土・茶褐色シルト混じり砂質土・黒灰色砂質土で、基底面付近には灰・炭が沈澱した状態で検出した。遺物は、内部から布留式の時期と思われる甕（26）のほか小片が少量出土している（第35・36図）。



第34図 SK 2 平断面図

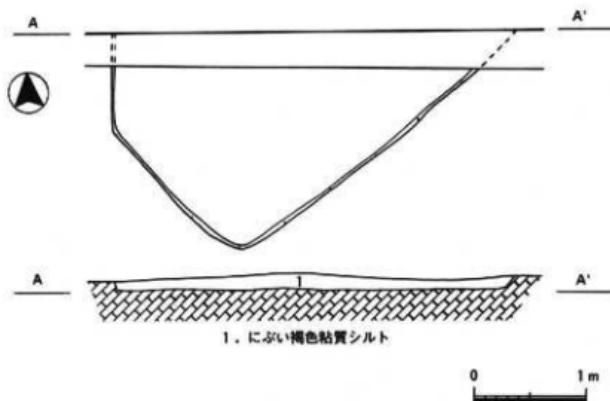


第35図 SK 3 出土遺物実測図

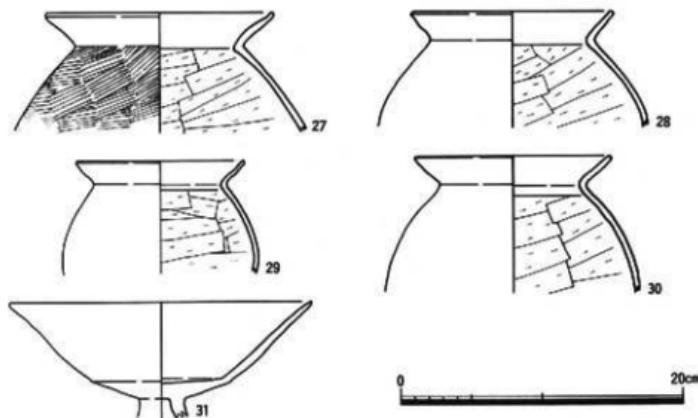
第36図 SK 3 平断面図

S K 4

3c区の北壁付近で検出した。平面は南部に直角のコーナー部があり、北部は調査区外に至る。堆積土はにぶい褐色粘質シルトで、平坦な基底面の北東部には、砂礫（径0.5~0.4cm）が約1~3cmの厚みで敷き詰められている。遺物は、内部から布留式古相に比定される庄内式壺（27）・布留式壺（28~30）・高杯（31）のほか土器片がごく少量出土している（第37・38図）。



第37図 SK 4 平断面図



第38図 SK 4 出土遺物実測図

小穴 (S P)

3個を検出した。平面はほぼ円形を呈する。規模は検出部で、径30~40cm、深さ15~25cmを測る。断面は逆台形を呈する。遺物は出土していない。これらの小穴の性格は不明であるが住居に伴う柱穴ではなさそうである。

溝 (S D)

S D 3

3d区の北壁付近で検出した。規模は検出部で、幅0.5m、深さ10cmを測る。断面は半円形を呈する。堆積土は褐灰色シルト混粘土である。遺物は、内部から土師器の壺(32)などがごく少量出土している(第39図)。

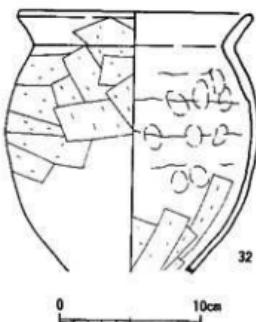
古墳時代中期

溝 (S X)

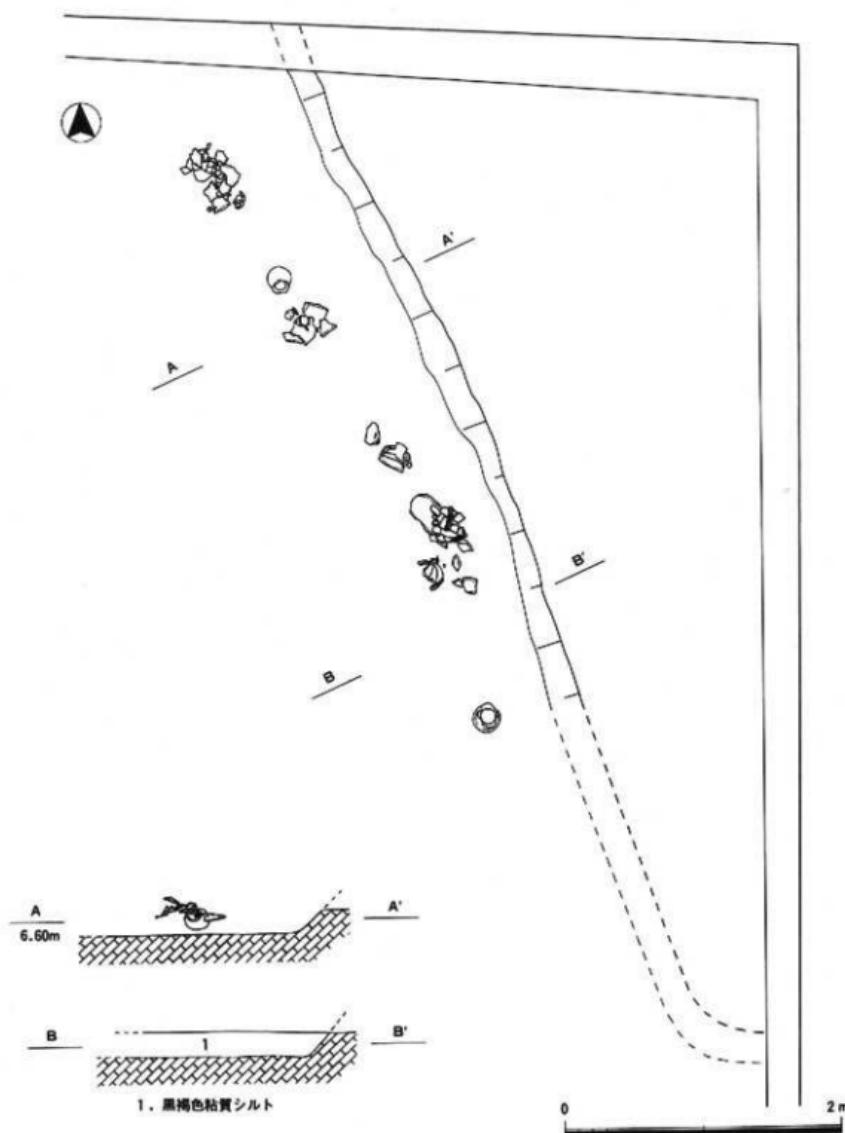
S X 1

調査区北東部で検出した。方向は南東ー北西方向を示し、南部は鎌倉時代の整地層によって削平され、北部は調査区外に至る。規模は検出部で、幅1.3m、深さ20cmを測るが、西脇はすでに削平されており存在しない。断面は半円形を呈する。堆積土は黒褐色粘質シルトで、この内部から浮いた状態の円筒埴輪(33~38)・壺(39~40)・壺(41~42)が出土した。円筒埴輪は約1.3~1.6mの間隔で4点、その間で壺・壺を出土している。これは古墳の墳丘周辺に並べられていたものが後世の削平などにより転げ落ちたのではないかと思われる。

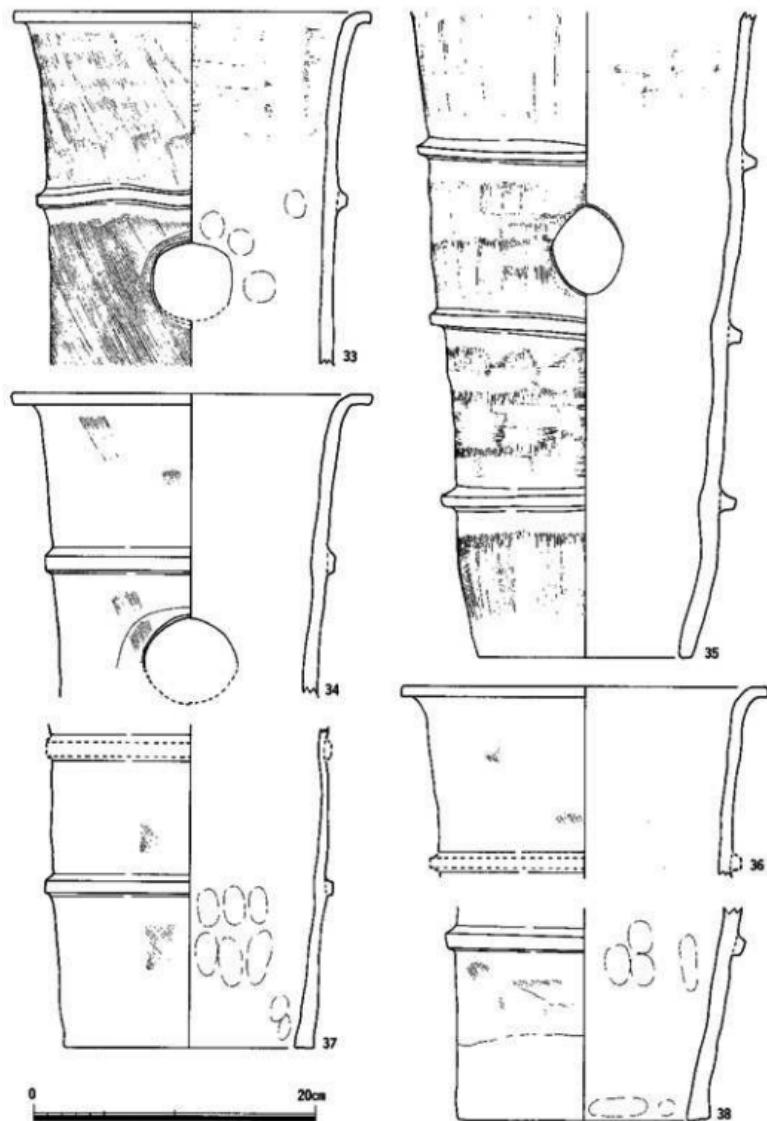
古墳の形状は検出した周濠から方墳と考えられるが、その詳細については墳丘・周濠が後世の開発によって削平を顕著に受けている。また、調査区が小面積であり古墳の一部の検出に過ぎず、全貌を知ることが出来なかった。古墳の時期は、円筒埴輪の形態から川西編年のⅡ・Ⅲ期に類似するものと思われることから5世紀中葉に位置づけられる(第40~42図)。



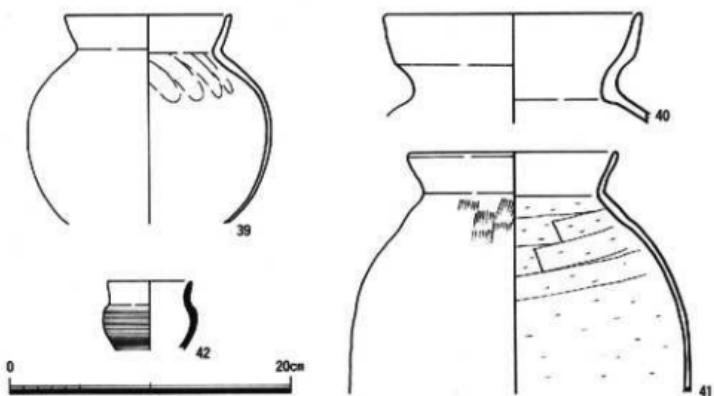
第39図 S D 3 出土遺物実測図



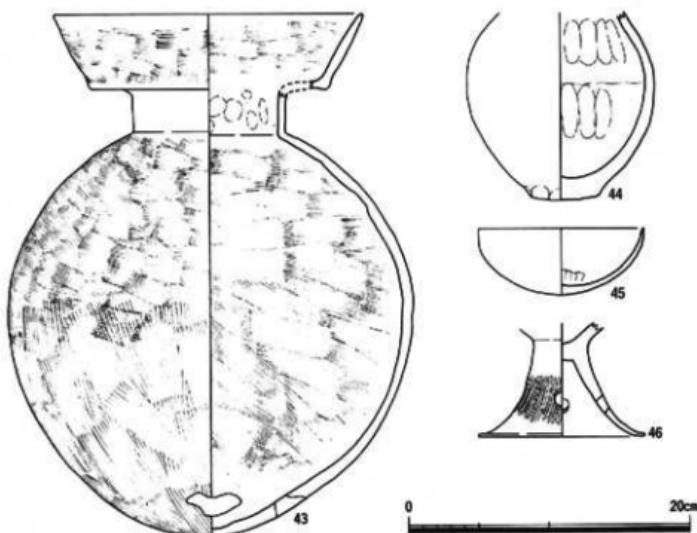
第40図 S X 1 検出遺物平面図



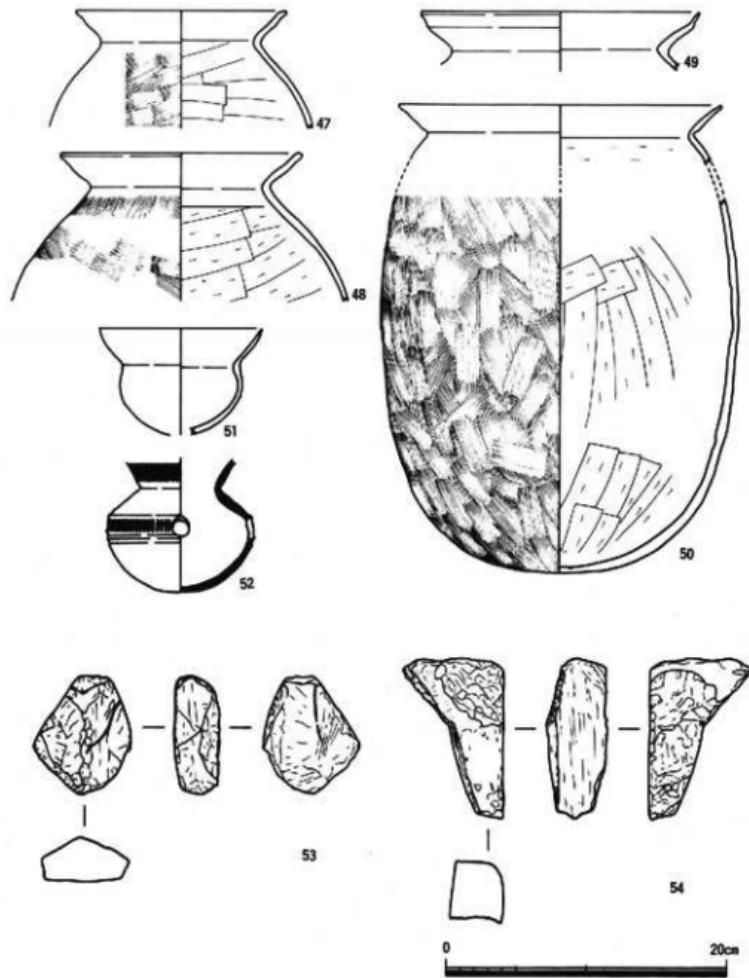
第41図 SX 1 出土遺物実測図 1



第42図 S X 1 出土遺物実測図 2



第43図 遺構に伴わない出土遺物実測図 1



第44図 造構に伴わない出土遺物実測図 2

遺構に伴わない出土遺物

第3層～第5層から出土している。出土量は、コンテナ箱にして約2箱分である。時期は、第5層が弥生時代後期、第4層が古墳時代前期、第3層が古墳時代～平安時代末に至るものである。以下、図示できたものについて記す。第5層から出土したものは、壺(44)・高杯(46)である。第4層から出土したものは、二重口縁壺(43)・杯(45)・布留式甕(47・48)・甕(49・50)・小型丸底壺(51)・甕(52)で、その他に白色の砂岩材である砥石(53・54)2点が出土している。第3層から出土したものは、古墳時代中期に比定される土師器の長胴甕(51)・須恵器の(52)である(第43・44図)。

第3節　まとめ

今回の第24次調査は当遺跡の推定範囲内の北東部にある。調査区は小面積であったが弥生時代後期、古墳時代前期(布留式古相)、古墳時代中期、鎌倉時代の4時期の遺構が重複する状況で確認された。以下、各時代ごとに記す。

弥生時代後期の遺構は当遺跡の既往調査において、南東部(約60m)に近接する第13次調査で、畿内第V様式の一括土器が出土している土坑が検出されているだけであった。だが、今回の調査においてこの時期の遺構が検出され、当遺跡の北東部には弥生時代後期の居住域が存在することは確実であろう。

古墳時代前期(布留式古相)は当遺跡において居住域と墓域の存在が明らかになっており、この時期の集落構成を解明する上で貴重な資料が得られている。今回の調査では住居に関連する遺構が検出され、より北東部に存在することが考えられる。

古墳時代中期は、当遺跡の東部で、平安時代の整地層から混在して出土している。また、その下層の上面から土坑・小穴の遺構が若干検出されているのが既往調査で明らかになっているだけであった。今回の調査では古墳(方墳)の周濠の一部と考えられる溝が検出され、当遺跡の北東部には古墳が存在することが明らかになった。近年、低湿地に位置する他遺跡でも古墳の検出が各地で報告されており、平野部にも古墳が存在することが確実になってきた。検出例では八尾市域における古墳には美園遺跡・賀振遺跡・小阪合遺跡?・龜井遺跡などがあげられる。当遺跡では今回の調査がはじめての検出である。

平安時代は当遺跡の東部で検出した整地層が当調査区にも広がっていることが確認された。

以上、今回の調査は小面積ではあったが、当遺跡内における各時期の様相を新たに究明できる資料を得ることが出来た。

第4節 出土遺物観察表

遺物番号 国版番号	器種	法量 (cm)	口径 高さ	形態・調整等の特長	色調	胎土	焼成	備考
1 甕 (底生土器) SK 1	口 径 15.6			体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に茶褐色を呈る。縁部は外傾する面をもつ。体部は欠損。口縁部内に墨跡のため調整不明。		4mm以下の砂粒を微量と5mm以下の礫を含む。	良好	
2 同上 SK 1	口 径 13.0			上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ反対して右側に伸びる口縁部に生ずる。縁部は外傾する面をもつ。体部は中位以下欠損。口縁部、体部内外面摩耗のため調整不明。	乳茶灰色	3.5mm以下の砂粒を微量と7mm以下の礫を含む。	良好	
3 長頸甕 (底生土器) 十三 土器集積	口 径 10.1			橢円形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して上外方へ強く伸びる口縁部に呈る。縁部は丸い。底部は突出した平底。口縁部内側に上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ内面ヨコナデ、体部外側ヘラミガキ、内面ナダ、底部外側ナダ。	褐灰色	2mm以下の砂粒を多量に含む。	良好	完形。風化有。
4 同上 器 高 23.0	口 径 10.4			橢円形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。縁部は丸い。底部は突出した平底。口縁部内側に上位ヨコナデ、下位ヘラミガキ内面ナダ、体部外側ヘラミガキ、内面ナダ、底部外側ナダ。	茶褐色	0.5mm以下の角閃石等の砂粒を多量含む。	良好	
十三 土器集積								
5 同上 十三 土器集積	底 徑 4.6			突出気味の平底の底部から、そろばん球形の体部に至る。口縁部は欠損。	茶褐色	1.5mm以下の角閃石等の砂粒を多量含む。	良好	
6 同上 土器集積	底 徑 5.2			突出したあげ底から上外方へ内渦気味に伸びる体部に至る。体部中位以上は欠損。体部外側ヘラミガキ、内面ヘラナダ、底部外側指痕、内面・底面ナダ。	褐茶色	1.5mm以下の角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	焦付着。
7 同上 十三 土器集積	底 徑 4.0			突出したあげ底から半球形の体部に至る。体部上位以上欠損。体部内外面指痕、内面・底面ナダ。	茶褐色	3mm以下の角閃石・長石・赤褐色酸化鉄等の砂粒を多量含む。	良好	
8 同上 土器集積	底 徑 4.0			底部は突出したあげ底。口縁部・体部は欠損。底部内外面・底面ナダ。	孔褐茶色	3mm以下の長石等の砂粒を微量含む。	良好	
9 同上 土器集積	底 徑 3.8			底部は突出したあげ底。口縁部・体部は欠損。底部内外面・底面ナダ。	孔褐茶色	3mm以下の長石・角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	
10 同上 土器集積	底 徑 4.4 最大径 24.4			突出したあげ底から、橢円形の体部に至る。体部上位以上欠損。体部内面に3条の接合痕有り。体部外側ヘナナダ、内面ナダ、底部内外面ナダ。	褐茶色	1.5mm以下の角閃石等の砂粒を多量に含む。	良好	
11 甕 (土師器) 土器集積	底 徑 1.2			底部は突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。底部内外面摩耗のため調整不明。	淡灰褐色	長石等の微砂粒を含む。	良好	
12 甕 (土師器) 土器集積	口 径 17.2 底 徑 5.0			体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。縁部はつまみ上げ、外側に若干凹面をもつ。体部中位欠損。底部は突出気味の平底。口縁部内外面ヨコナデ、体部外側タキ、内面ナダ、底面ナダ、底部外側ハケナダ後ナダ、内面ヘラ削り。	乳茶色	1.2mm以下の角閃石等の砂粒を中量含む。	良好	
土器集積								

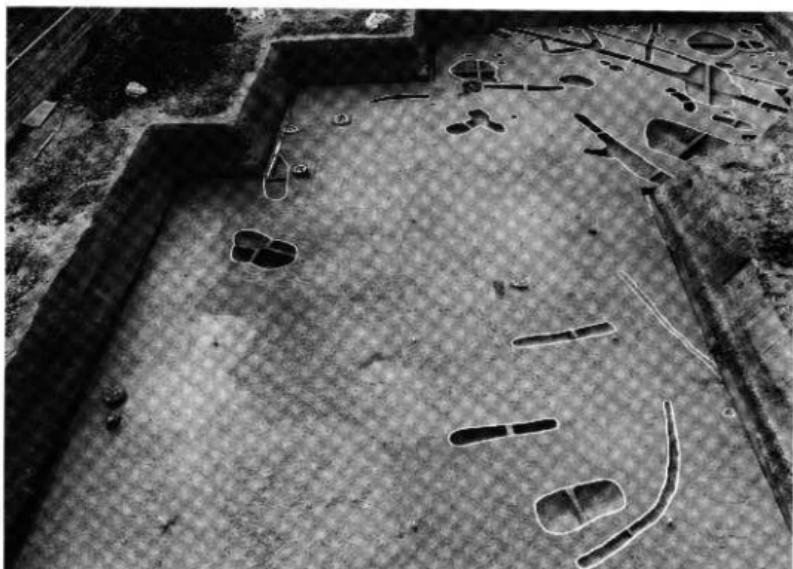
遺物番号 同版番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調整等の特長	色調	胎土	焼成 性	備考
13	有孔体 (土師器) 土器集積	底径	1.0	尖り気味の底部から上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。底部に穿孔有り。体部外向タキ、内面ハナデ。	茶褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
14	鉢 (土師器) 土器集積	底径	4.6	突出しない半底から上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。底部に穿孔有り。底部内外面ナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
15	同上	底径	2.0	丸足の底部から、上外方へ伸びる体部に至る。口縁部・体部は欠損。体部内外面剥離のため調整不明。	淡褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
16	高杯 (土師器) 土器集積	口径 器高 底径	21.1 15.3 13.7	斜上方へ内凹気味に伸びる杯部から直通し、外方へ外反して伸びる口縁部に至る。縫隔は丸い。脚部は長く上外方へ伸びる柱状部から屈曲し、大きく下外方へ外反して伸びる根部に至る。縫隔部は丸い。柱状部三方に円孔を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、杯部外側調整不明、内面ハラミガキ、脚部内外面調整不明。	茶褐色	5mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良	完形。
十三								
17	同上 (土師器) 土器集積	底径	7.8	杯部は上外方へ内湾して伸びる。端部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる。縫隔部は丸い。 受部・脚部内外面消耗のため調整不明。	乳白色	3mm以下の 長石・角閃 石・雲母等 の砂粒を中 量含む。	良好	焼付石。
18	高 (全体生土器) 土器集積	口径	15.4	口縁部は上外方へ外反して短く伸び、端部は外傾するをもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を少量含む。	良好	
19	同上 土器集積	口径	14.6	口縁部は上外方へ短く伸び、端部は外傾するをもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	4mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を中量含む。	良好	
20	同上 土器集積	口径	14.2	上内方へ伸びる体部から屈曲し、上外方へ 短く伸びる口縁部に至る。縫隔部は丸い。体部 中位以下欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外側ハラミガキ、 内面ハラミガキ。	褐茶色	3mm以下の 角閃石・長 石等の砂粒 を多量に含 む。	良好	内面に開窓 有。
21	同上 土器集積	口径	19.4	上内方へ内湾して伸びる体部から屈曲し、 斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。縫隔部は外 傾するをもつ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ナデ、体部外側ハラミガキ、 内面ハラミガキ。	褐茶色	3mm以下の 角閃石・長 石・雲母等 の砂粒を多 量含む。	良好	
十三								
22	同上 土器集積	底径	5.0	突出したややあげ底の底部から斜上方へ伸 びる体部に至る。体部下位以上欠損。 体部外側タキ、内面ハナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・雲母 ・角閃石、 チャート等 の砂粒を含 む。	良好	
23	同上 土器集積	底径	4.2	突出気味の平底から体部に至る。体部は欠 損。 体部外側タキ、底部外側指痕、内面、 底面ナデ。	茶褐色	3mm以下の 長石・角閃 石等の砂粒 を中量含む。	良好	
24	同上 土器集積	底径	4.0	底部は突出気味の半底。体部は欠損。 底部外側指痕、内面ナデ。	乳白色	4mm以下の 長石・角閃 石・チャート等 の砂粒を少量 含む。	良好	

遺物番号 図版番号	名 称	法 庫 (cm)	口 深 25深	形 塵・調 整 等 の 特 長	色 調	胎 土 滲 成 標 考
26	斐 (上体部) SK 3	口 径 15.6		上外方へ内凹して伸びる体部から弧曲し、斜上方へ伸びるU縫部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面彫耗のため調整不規、内面へラケヅリ。	乳白色	2.5m以下の長石・チャート等の砂粒を少量含む。
27	尻上 SK 4	口 径 16.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縫部に至る。端部はつまみ、外側する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面タキ(5本)、内面へラケヅリ。	外 壁褐色 内 黒褐色	3m以下の長石・角閃石・玄母等の粗砂粒を含む。
28	尻上 SK 4	口 径 14.0		上内方へ内凹特殊に伸びる体部から弧曲し、斜上方へ伸びるU縫部に至る。端部は外側する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面彫耗のため調整不規、内面へラケヅリ。	外 乳白色 内 乳褐色	3m以下の長石・石英・チャート・及び赤褐色化粧等の粗砂粒を含む。
29	尻上 SK 4	口 径 11.8 嵌入径 14.0		上内方へ内凹して伸びる体部から弧曲し、斜上方へ伸びるU縫部に至る。体部下位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面彫耗のため調整不規、内面へラケヅリ。	外 乳白色 内 灰褐色	2m以下の長石・石英・角閃石・玄母等の粗砂粒を含む。
30	尻上 SK 4	口 径 13.8		上内方へ内凹して伸びる体部から弧曲し、斜上方へ伸びるU縫部に至る。端部は外側する面をもつ。体部中位以下欠損。 口縫部内外面ヨコナデ、体部外面彫耗のため調整不規、内面へラケヅリ。	外 乳白色 内 灰褐色	2m以下の長石・石英・角閃石・チャート等の砂粒を含む。
31	高砂 (上体部) SK 4	口 径 21.4		平底に近い体底部から斜上方へ伸びるU縫部に至る。端部は丸く尖る。体部は欠損。体部は内外面彫耗のため調整不明。	外 乳白色 内 乳白色	3m以下の赤褐色化粧・長石等の砂粒を含む。
32	斐 (上体部) SD 3	口 径 16.4 嵌入径 18.2		前円形の体部から弧曲し、斜上方へ伸びるU縫部に至る。端部は欠損。体部内面に3条の横裂有り。 口縫部内外面ヨコナデ後へラケヅリ。体部外側上位へラケヅリ、下位ナダ、内面上位ヨコナデ・指捺痕。下位へラケヅリ。	外 黑褐色 内 壁褐色	5m以下の長石・石英・角閃石・玄母等の砂粒を含む。
十四	門持輪輪	口 径 25.0 タガ幅 0.8 タガ高 ~1.5 タガ高 0.6 タガ高 ~0.7 スカシ径 5.5		筒状の体部で、上外方へ伸びた旗状反するU縫部に至る。端部は外側に面をもつ。体部中位以下欠損。体部外側にタガと二つの円形のスカシが見られる。 口縫部内外面ヨコナデ後へラケヅリ。体部外側上位へラケヅリ、下位ナダ、内面上位ヨコナデ・指捺痕。下位へラケヅリ。	褐灰色	1.5m以下の長石・チャート・鐵化粧等の砂粒を多量に含む。
十四	S X 1					
34	尻上 SX 1	口 径 25.6 タガ幅 1.0 ~1.9 タガ高 0.5 ~0.76 スカシ径 6.0		筒状の体部で、上外方へ伸びた旗状反して水平に伸びるU縫部に至る。端部は外側に面をもつ。体部外側以下欠損。体部外側にはタガと二つのスカシが見られる。 口縫部・体部内外面彫耗のため調整不規。	褐色 ~赤褐色	10m以下の長石・チャート・赤褐色化粧等の砂粒を多量に含む。
35	尻上 SX 1	高 径 15.0 タガ幅 0.5 ~1.8 タガ高 0.9 ~1.2 スカシ径 6.2		筒状の体部で、底部より上外方へ伸びる。底部付近は内凹特殊で端部は下に面をもつ。 U縫部は欠損。体部には3筋のタガがあり、上部のその間に二つの円形のスカシが見られる。上部上位に1条横裂痕有り。 外面横ハケ、芯部中位一帯盤ハケ。タガはヨコナデ。内面U縫部歪曲横ハケ、以降ナダ。	乳白色 ~赤褐色	10m以下の長石・チャート・赤褐色化粧等の砂粒を多量に含む。
十四	S X 1					

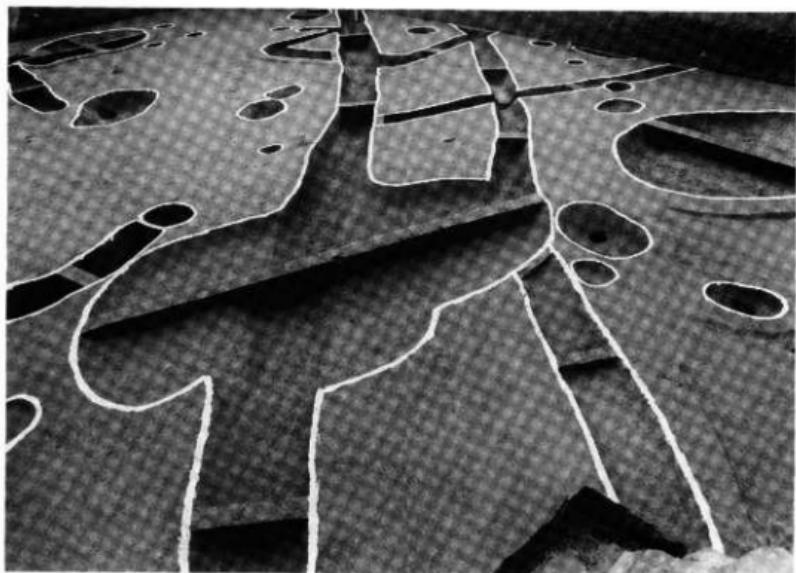
遺物番号 団体番号	器種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特長	色調	紀 十	焼成度	考
36	円筒埴輪	口 径 25.6		筒状の体部で、上方外へ伸びた後外上方へ外反して伸びる口絶部に丸。底部は若干上につまむ。底部中位以下は欠損。 外面ハケナダ、内面ナダ。	乳褐色 ～赤褐色	7mm以下の 長石・チャート・赤褐色化粧等 の砂粒を含む。	良好	
十五	SX1							
37	同上	底 径 17.6 タガ幅 0.8 タガ高 -1.5	口 径 17.6 タガ幅 0.8 タガ高 0.6	筒状の体部で、底部から上方外へ伸びる。 底部は下に面をもつ。体部上位は欠損。 外側・内側上位割れのため調査不明。下位 指ナダ・痕跡さえ。	灰褐色	10mm以下の 長石・赤褐色化粧等 の砂粒を少 量含む。	良	
十五	SX1							
38	同上	底 径 17.8 タガ幅 0.7 タガ高 -1.7	口 径 17.8 最大径 17.3	体部は筒状で、底延から上方外へ伸びる。 底部は下に面をもつ。体部中位以上は欠損。 底部外側に1本の接合痕を有する。 外面ハケナダ、内面ナダ。	褐色 ～青褐色	1.5mm以下の の長石・チャート・赤褐色化粧等の砂粒を多量に含む。	良	
十五	SX1							
39	壺 (土師器)	口 径 11.8 最大径 17.3		球形の体部から屈曲し、上方外へ内側化粧 に伸びる口絶部に丸。底部は丸い。底部は 欠損。 外側・体部内面下化粧等のため調査不明。 口絶部内面ヨコナダ、体部内面上位地ナダ。	茶褐色	3mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
十五	SX1							
40	同上	口 径 18.0		上内方へ伸びる体部から屈曲し、上方外へ 外反して伸びた後上方へ伸びる。縫部に凹 る。底延は丸い。体部は欠損。 内外表面剥離のため調査不明。	乳灰茶色	3mm以下の 長石・チャート・赤褐色化 粧等の砂粒を多量に含む。	良	口縫部外面 に黒斑有。
十五	SX1							
41	壺 (土師器)	口 径 14.6 最大径 24.3		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上方外へ伸びる口絶部に凹る。底部は丸い。 体部中位は欠損。 1.5mm以下外ヨコナダ、体部外面ハケナダ (6本)、内面ヘラケズ。	乳灰茶色	3mm以下の 長石・チャート等の砂 粒を少量含む。	良好	
十五	SX1							
42	壺 (須恵器)	口 径 5.9 最大径 6.6		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、 上方外へ外反して伸びる口絶部に凹る。底部は 丸い。底延は欠損。 体部外面凹凸カキ目、他は加點ナダ。	淡灰青色	極少粒を含む。	良好	ロクロ左方 向。
	SX1							
43	壺 (土師器)	口 径 21.8 器 高 37.4 最大径 26.5		球形の体部から屈曲し、上方へ伸びた後頭 曲して外へ伸びて、また屈曲して上方外へ 伸びる口絶部に凹る。底部は丸い。底部は丸 い。底延に穿孔を有する。 1.5mm以下外ヨコナダ(外14本・内18本)、 縫部内外面ヨコナダ、体部外面ハケナダ (外上位14本・下位9本・内18本)。	乳灰茶色	1.5mm以下の 砂粒を多量に含む。	良好	底部外面に 黒斑有。
十五	包含層							
44	同上	底 径 4.8		やや突出した平底から球形の体部に引る。 口絶部は欠損。体部内面中位に1本は縫合痕 を有する。 体部外面ヨコナダ、内面指ナダ、底部外表面 底延。	茶褐色	6mm以下の 砂粒を含む。	良好	
十六	包含層							
45	杯 (土師器)	口 径 11.8 器 高 4.7		碗形の底延から上方外へ内溝して伸びる口 絶部に凹る。底部は丸い。底部中位に四方孔 有する。 柱状外縫ヘラミガキ、底部外面・内面ヨコ ナダ、底部内面ヘラナダ。	外 赤褐色 内 茶褐色	4mm以下の 砂粒を少量 含む。	不良	
十六	包含層							
46	高杯 (土師器)	底 径 12.0		杯部は欠損。脚部は下外方へ外反して伸びる 脚部に凹る。底部丸い。脚部中位に四方孔 有する。 柱状外縫ヘラミガキ、底部外面・内面ヨコ ナダ。	乳白色	2mm以下の の角閃石・長 石・石英等 の砂粒を少 量含む。	良好	
	包含層							

遺物番号 図版番号	器 種	法量 (cm)	口径 器高	形態・調査等の特長	色 調査上	焼 成	備 考
47	壺 (土師器) 包含層	口 径 14.8		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラケズリ。	褐茶色 1mm以下の 砂粒を多量 に含む。	良	
48	同上	口 径 16.6		上内方へ内溝して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内溝して伸びる口縁部に至る。端部は若干内方に肥厚し、丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラケズリ。	外 淡灰褐色 内 褐色	3mm以下の 長石・石英・ 霰石等の移 粒を少量含 む。	良好
十六	包含層						
49	同上	口 径 18.0		体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びた後屈曲して上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラケズリ。	淡茶灰色 1mm以下の 砂粒を少量 含む。	良好	
50	同上	口 径 22.9 最大径 25.4		椭円形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部上位は欠損。底部は丸い。	乳赤褐色 5mm以下の 長石・石英・ チャート等 の移粒を多 量に含む。	良好	体部外面に 凹窓有。
十六	包含層			口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラケズリ。			
51	小型丸底壺 (土師器) 包含層	口 径 11.7 器 高 7.6		半球形の体部から屈曲し、上外方へ内溝気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸い。 内外面純粋のため調整不明。	褐茶色 微移粒を含 む。		
52	壺 (須恵器)			球形の体部の屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は欠損。体部中位に穿孔を有する。口縁部外面に1番25本の成状文、体部外面中位に割突文を有する。 内外面圓転ナデ。	青灰色 0.3mm以下の 砂粒を多 量に含む。	良好	口縁部内外面、体部外 面中位・内 面に自然釉 付層。
十六	包含層						

図 版

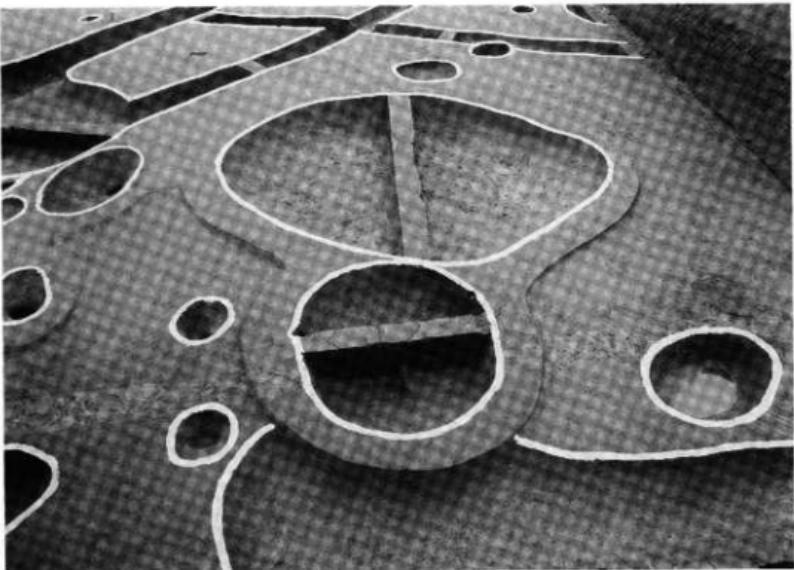


調査区全景（東から）

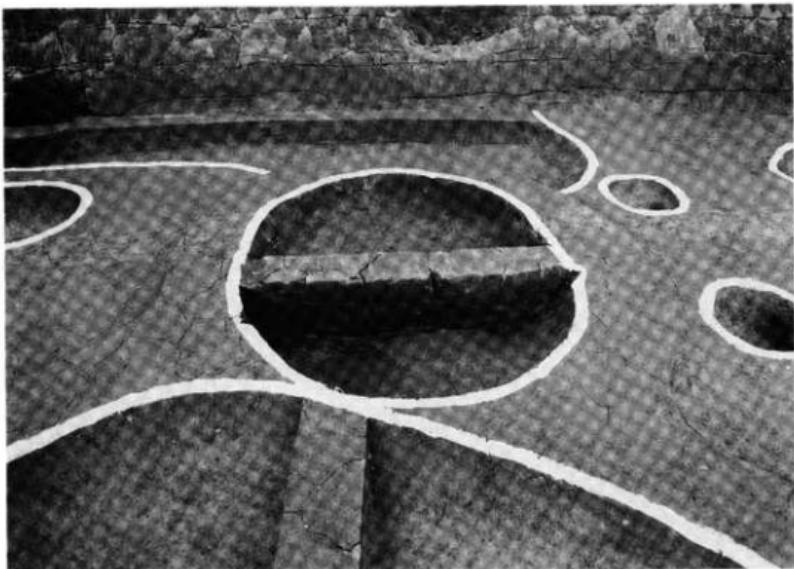


調査区北西部（北から）

図版二 第二三次

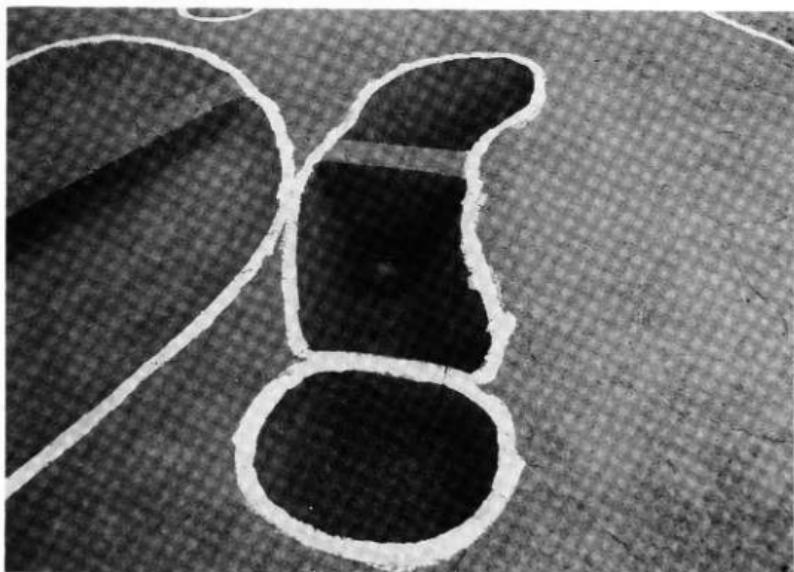


Ia SK1・SK2・SK7 (北から)



Ia SK1 (南から)

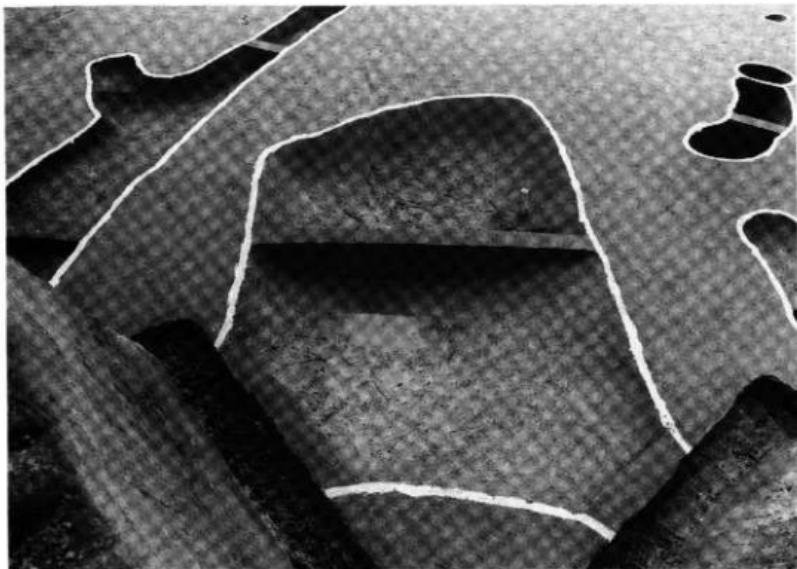
図版三 第二三次



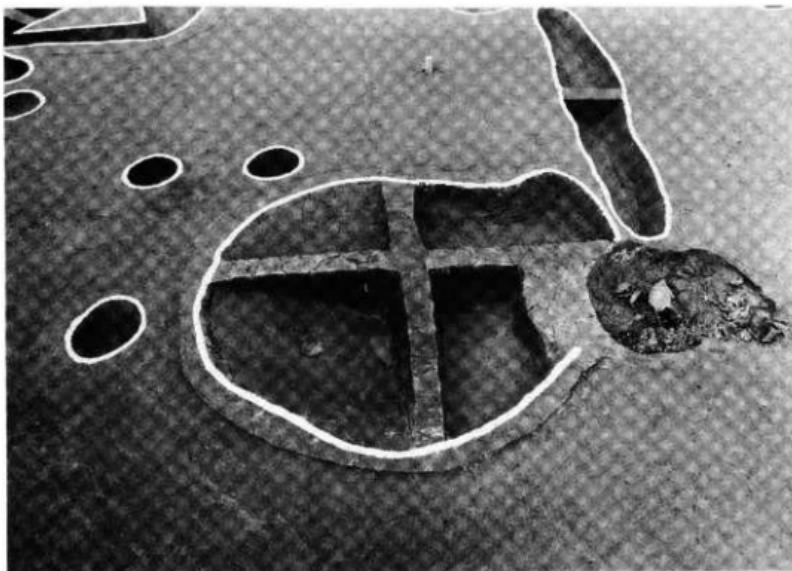
I b SK10 (南西から)



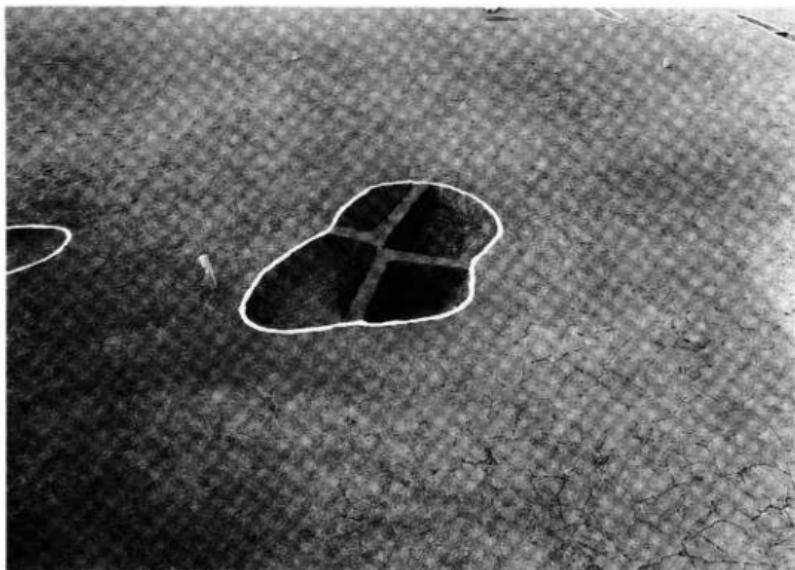
I b SK10 庄内焼 (南西から)



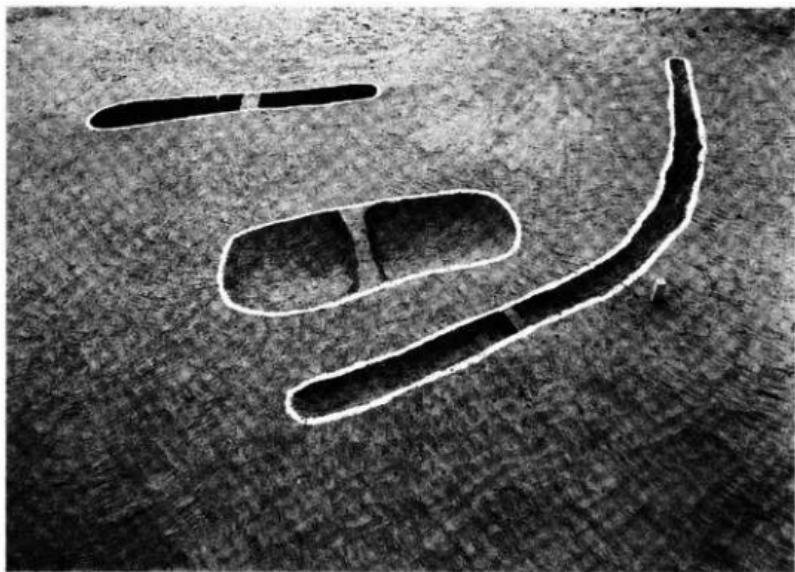
I a SK 8 (北東から)



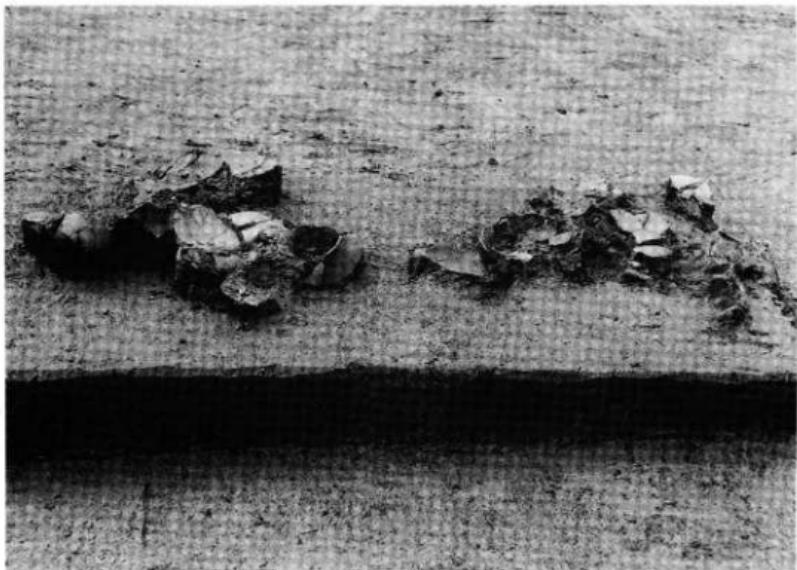
I b SK 6 (南から)



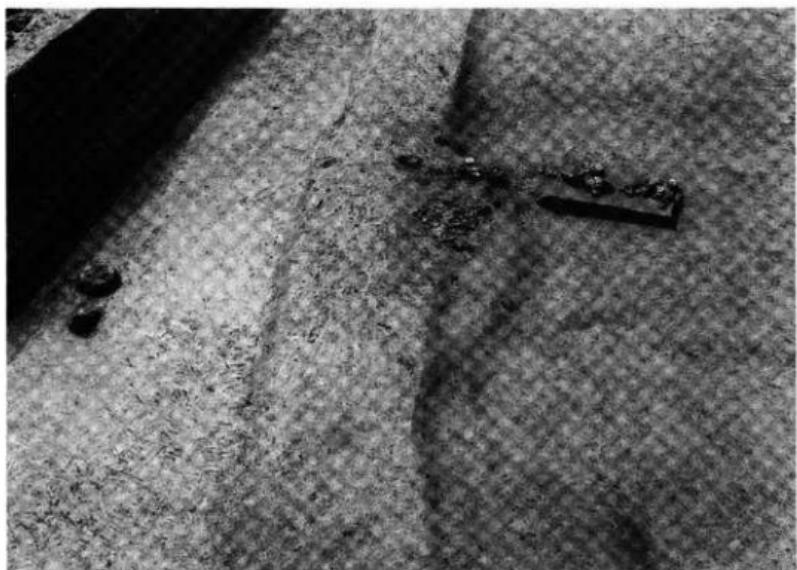
Ⅲc SK15 (南から)



Ⅲc SK14-SD9 (東から)



土器集積（東から）



土器集積（東から）

図版七 第二三次 出土遺物



1



2



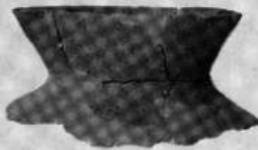
3



8



9



10



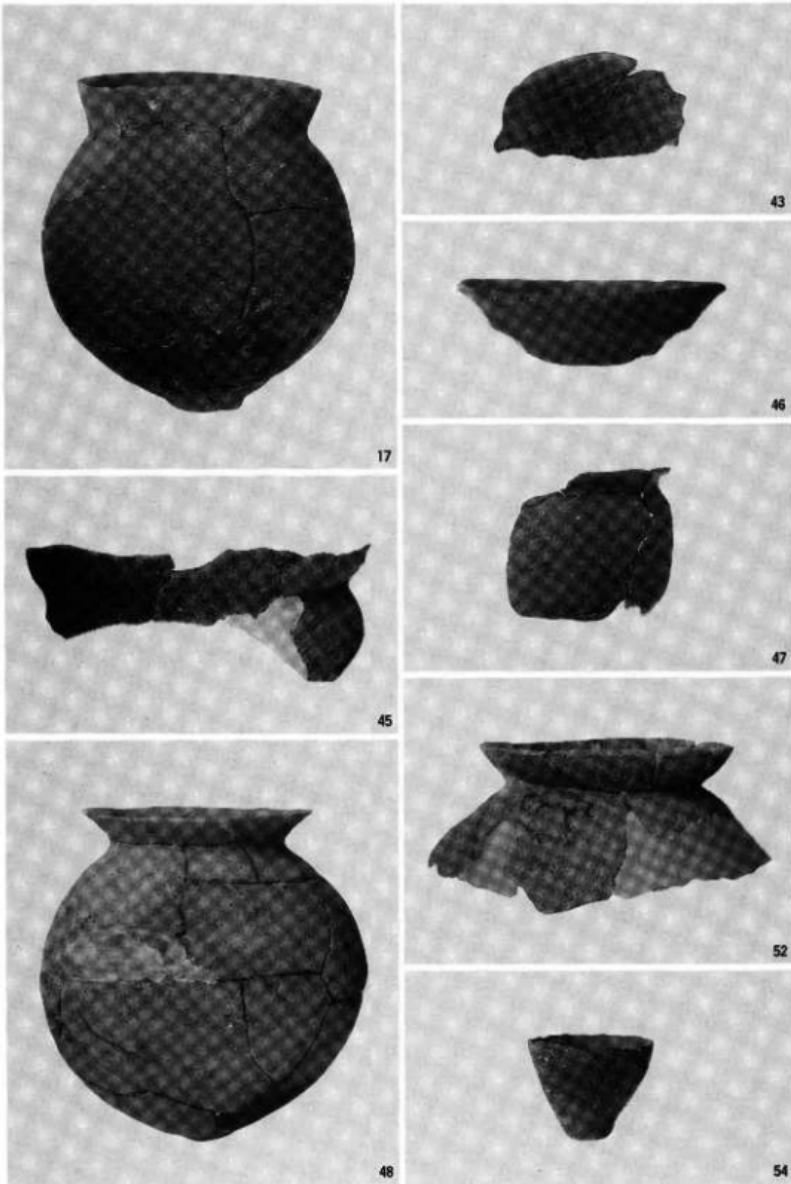
11



14

SK9 1 SK10 2 SK15 3 遺構に伴わない出土遺物 8~11・14

図版八 第二三次 出土遺物



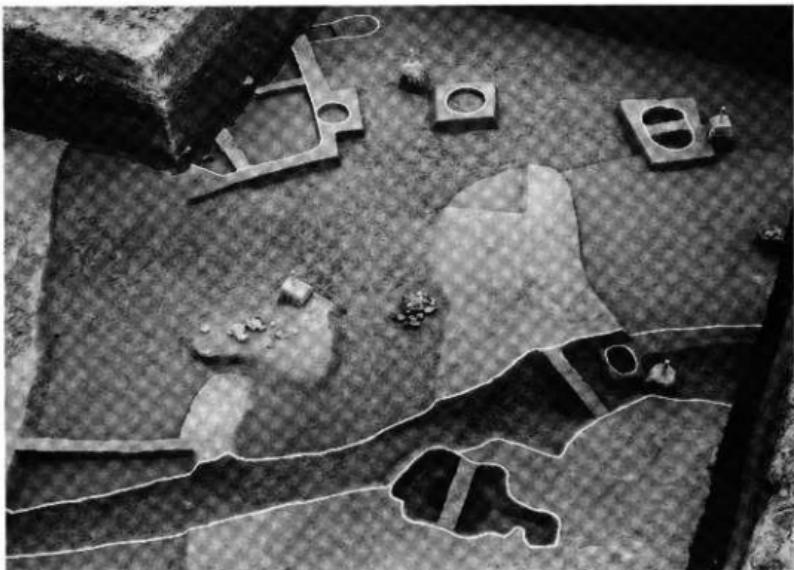
造柄に伴わない出土遺物



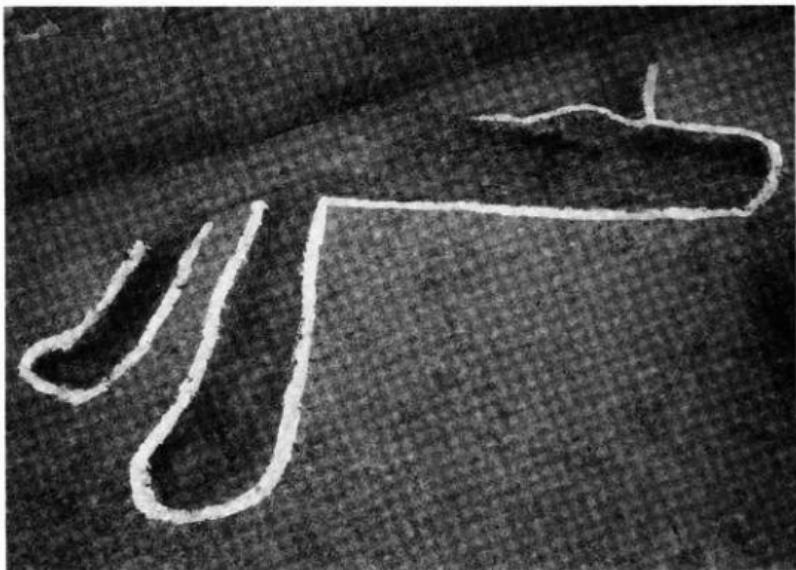
調査区全景（南西から）



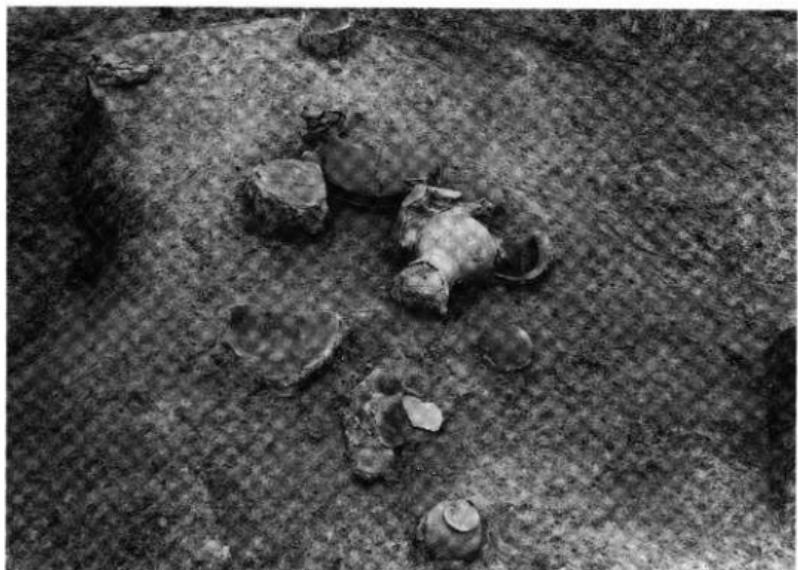
北部全景（南西から）



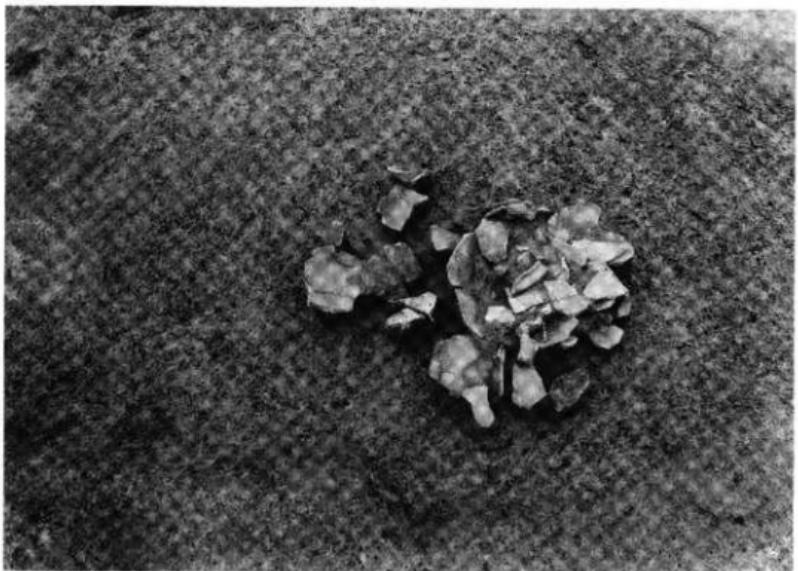
南部全景（南西から）



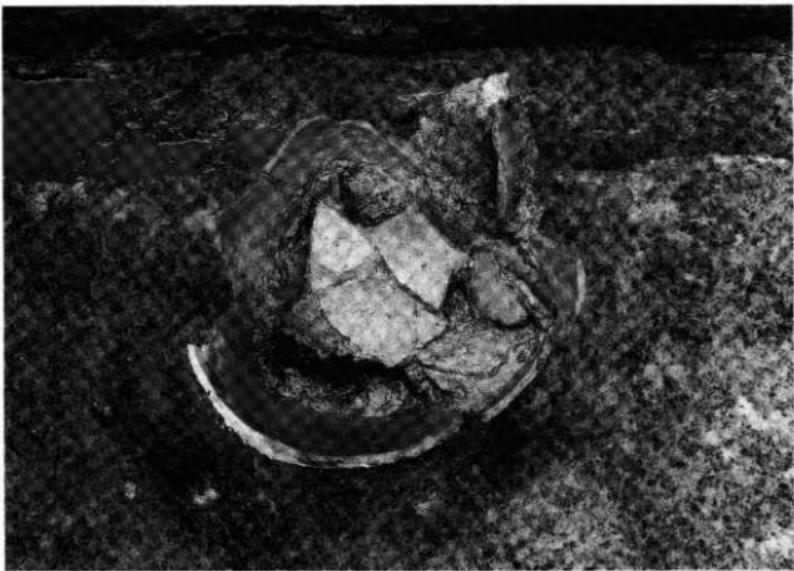
S D 3 (南から)



土器集積（南から）

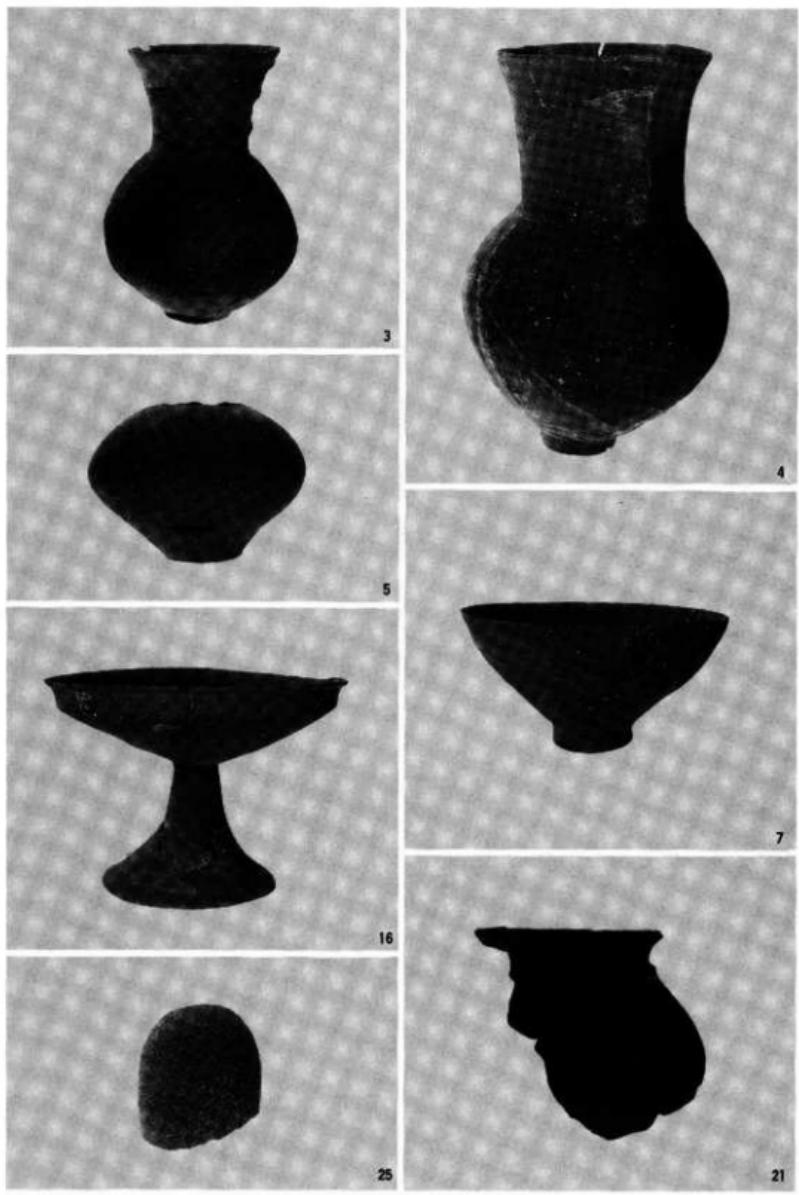


土器集積（南から）

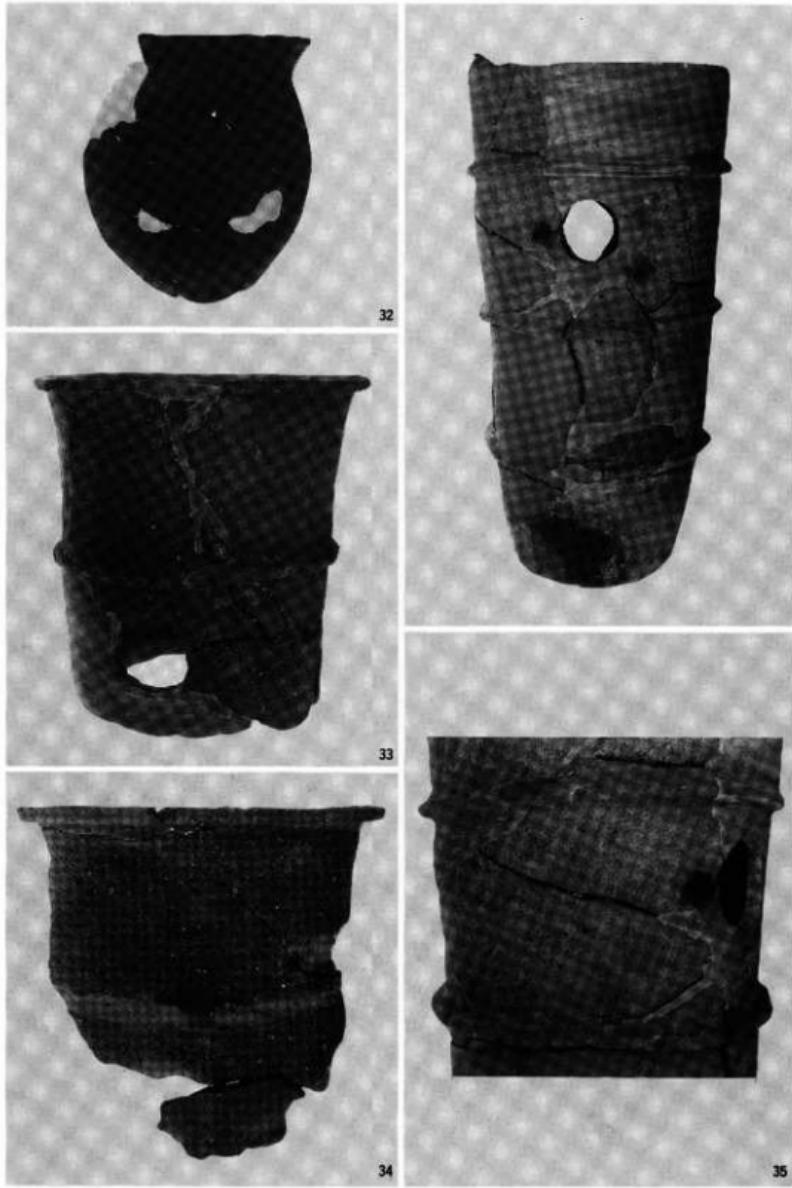


布留式蓋（北から）

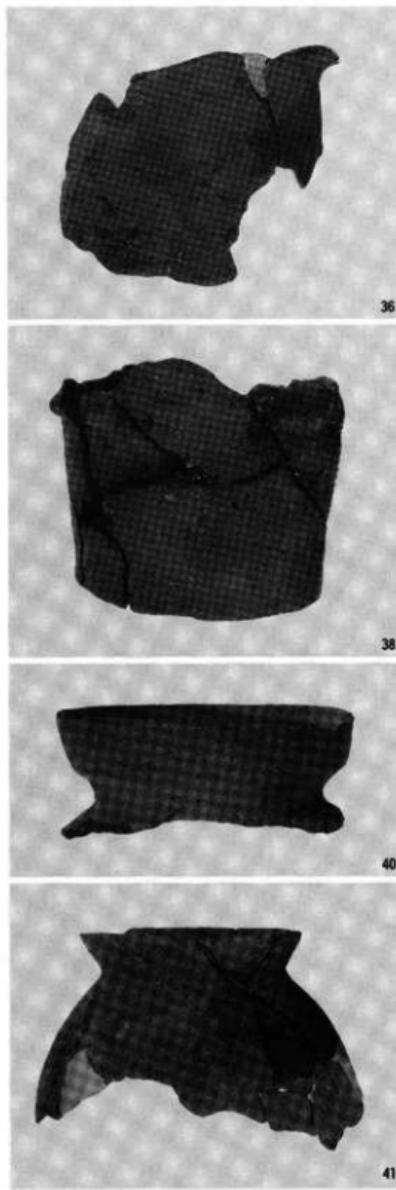
図版十三 第二四次 出土遺物



圖版十四 第二四次 出土遺物

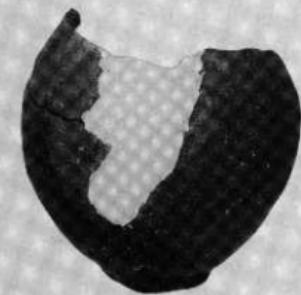


SK 5 32 SXI 33~35



S X 1 36~41 遺構に伴わない出土遺物 43

圖版十六 第二四次 出土遺物



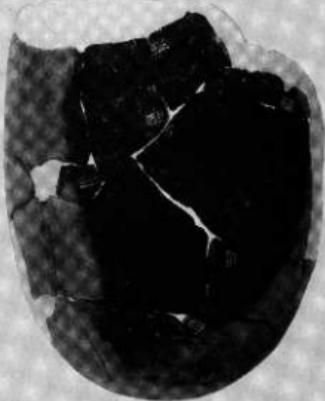
44



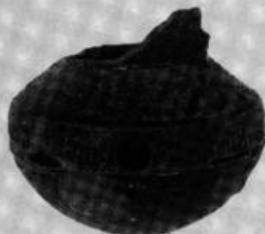
45



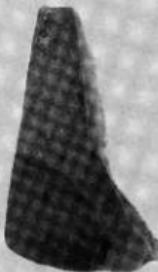
48



50



52



54

遺構に伴わない出土遺物

(財)八尾市文化財調査研究会報告29

東郷遺跡

— 第23次・第24次発掘調査報告 —

発行 平成3年3月

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会
〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
TEL (0729)94-4700

印刷 近畿印刷センター
〒582 大阪府柏原市本郷5丁目6番25号
TEL (0729)72-5918

表紙 レザック66
本文 書籍用紙
図版 マットアート
(260kg)
(70kg)
(135kg)

063